

平成25年度

連携型中高一貫教育に係るアンケート調査

結果と考察

平成26年3月

神石高原町教育委員会

目 次

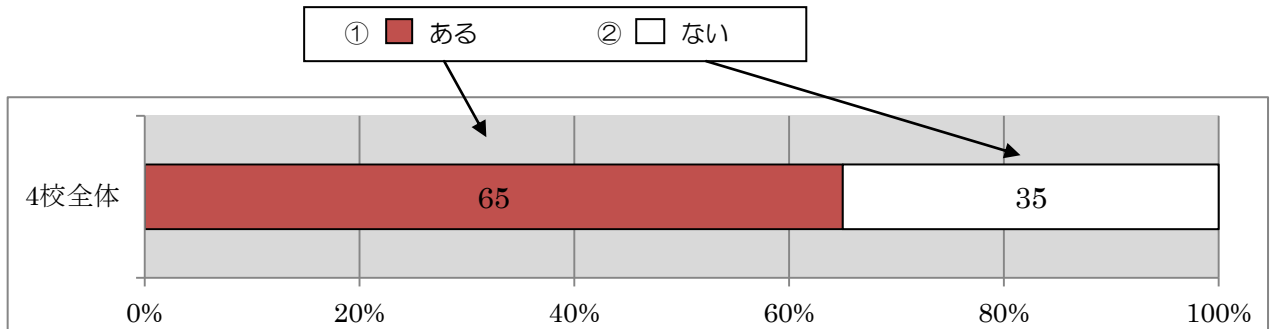
	ページ
I. 中 学 生 編	1 ~ 9
II. 高 校 生 編	10 ~ 13
III. 小・中学校保護者編	14 ~ 19
IV. 地 域 編	20 ~ 22
V. 中・高教職員編	23 ~ 25

回 答 者 数

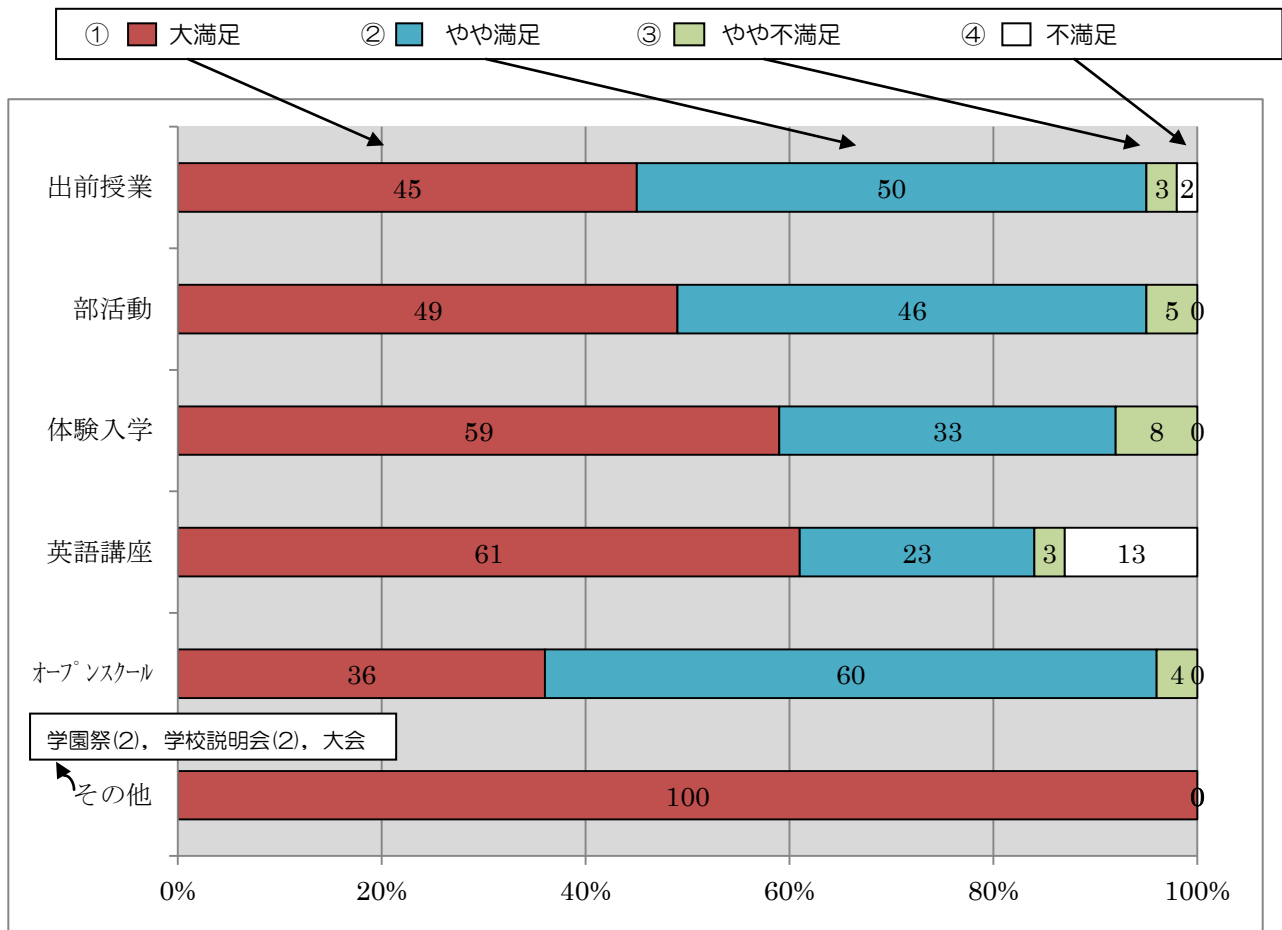
1. 中 学 生	回答者数 <u>217人</u> / 在籍者数 219人
2. 高 校 生	回答者数 <u>148人</u> / 在籍者数 159人
3. 小 学 校 保 護 者	回答者数 <u>178人</u> / 対象児童数 191人
4. 中 学 校 保 護 者	回答者数 <u>196人</u> / 生徒総数 219人
5. 地 域 ・ 一 般	回答者数 <u>81人</u> / 質問者数 96人
6. 中 ・ 高 教 職 員	回答者数 <u>77人</u> / 全教職員数 80人

I. 連携型中高一貫教育に係るアンケート調査（中学生）の結果と考察

1(1) あなたは本年度、油木高校の先生や生徒さんから指導してもらったり、一緒に活動をしたことがありますか。



(2) 上記(1)の質問で「① ある」と答えた人で、それはどうでしたか。

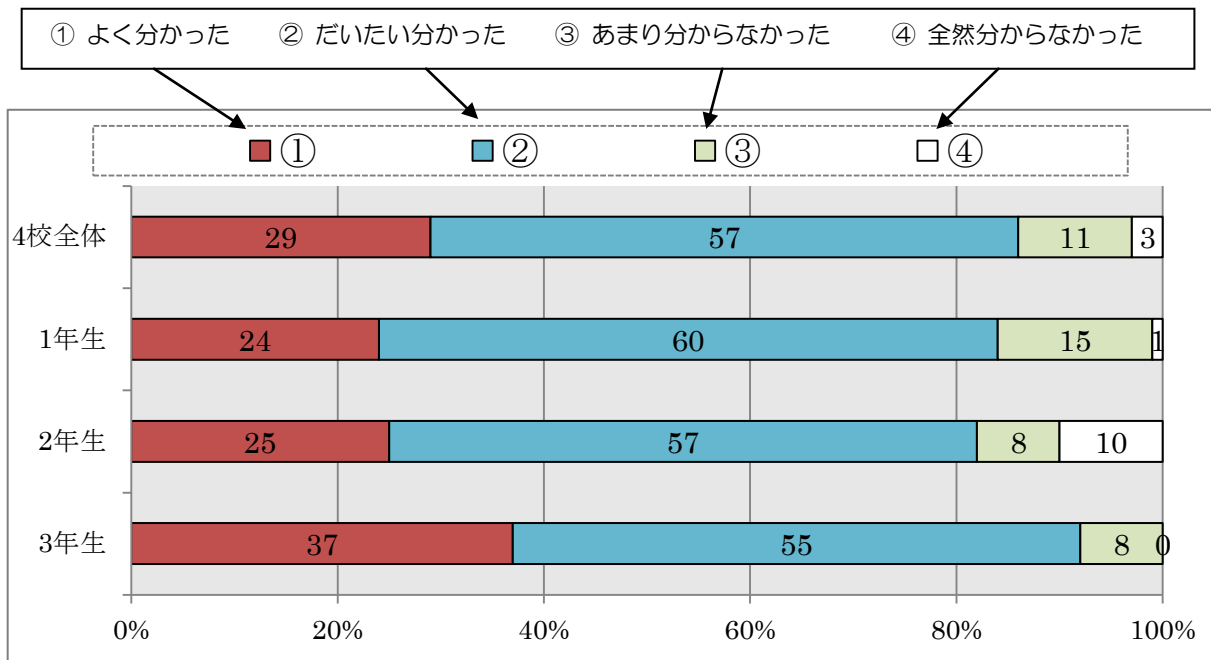


考察 中学生の連携教育活動体験者率は65%であるが、実質的にはもっと多いと思われる。(無回答生徒が多い) 其中で、「ある」と回答した生徒のほとんど(80%以上)が連携活動に「満足」と肯定的評価をしている。

これまでは、油木高校に教員の加配措置がない中で、1高校対4中学校で対応していただいていたが、油木高校に多大な負担をかけていたが、来年度からは教員の加配や2中学校に統合されるので、本格実施年度からは、連携活動体験者率100%をめざしていく必要がある。

② 本年度、中学生全員に「連携型中高一貫教育ジャーナル『高原の風』」や「油木高校パンフレット」を配布し、油木高校の状況などをお知らせしましたが、それらを見てどうでしたか。次の質問に教えてください。

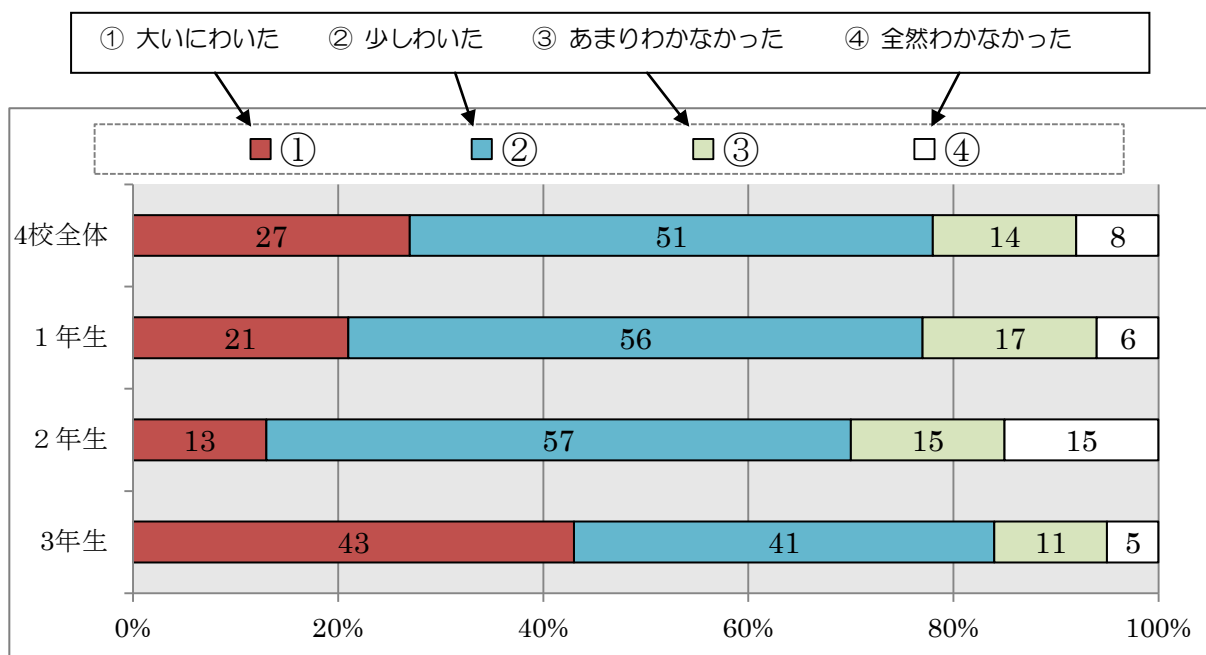
(1) 内容的にはどうでしたか。



考察 全体的には80%以上の生徒が「内容的には分かる」と肯定的回答をしているが、「全然分からなかった」が、2年生で10%あった。

そこで、内容検討も必要であるが、生徒への配布時に、先生の方から是非とも説明や注釈を加えながら、進路指導の一つとして活用や指導をお願いしたい。

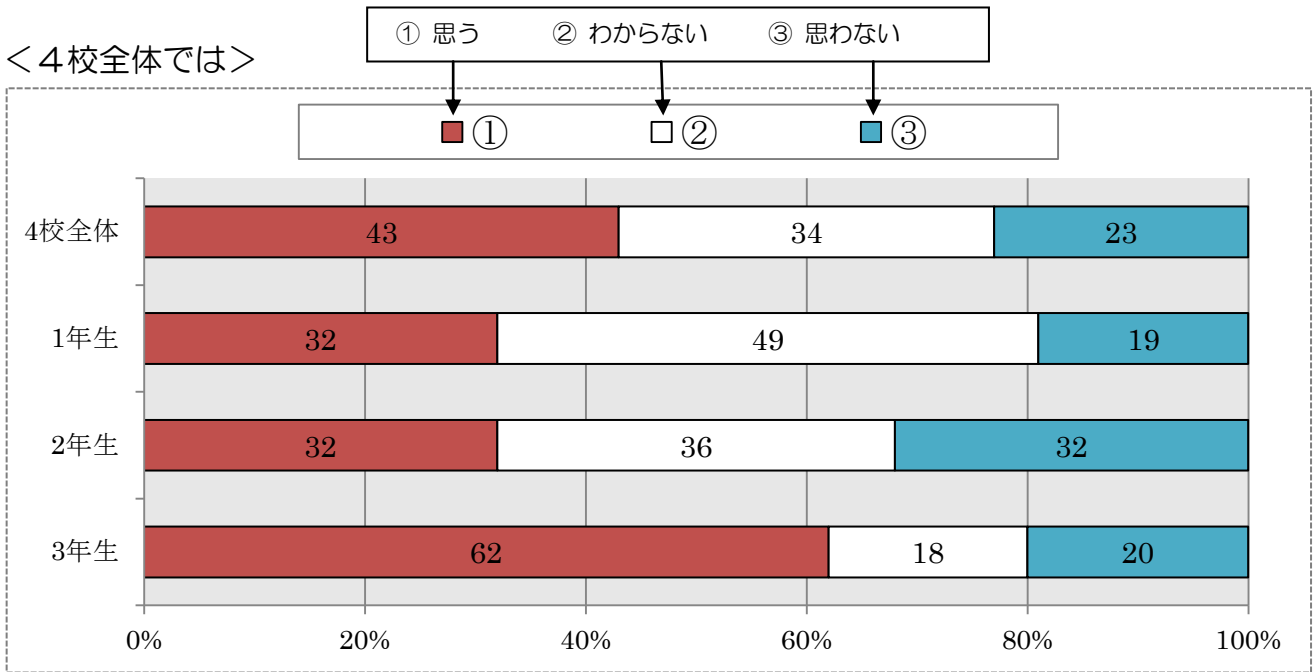
(2) それらを見て、油木高校への関心がわきましたか。



考察 全体的には約 80%の生徒が「関心がわいた」と肯定的回答をしている。これは昨年度より約 10%増加しているが、関心が「全然わかかなかった」との回答が、2 年生で 15%と二桁あった。

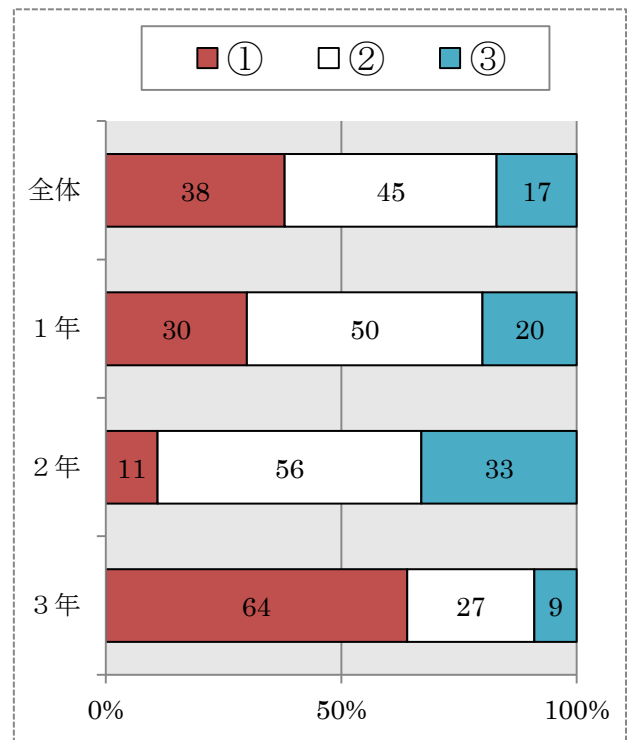
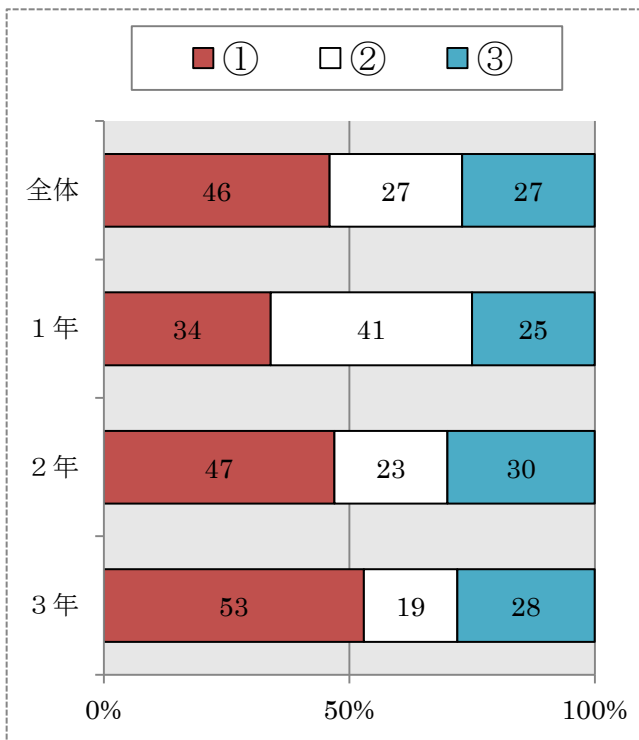
広報紙の内容としては、油木高校の教育実践や教育実績を中心に取り上げてきた。そのために油木高校への関心度が高まったものと思われる。今後もより油木高校への関心度が高まるような中身づくりが必要である。また、中学校の進路学習において、是非とも「油木高校パンフレット」をご活用いただきたい。

③ (1) あなたは油木高校に進学したいと思いますか。



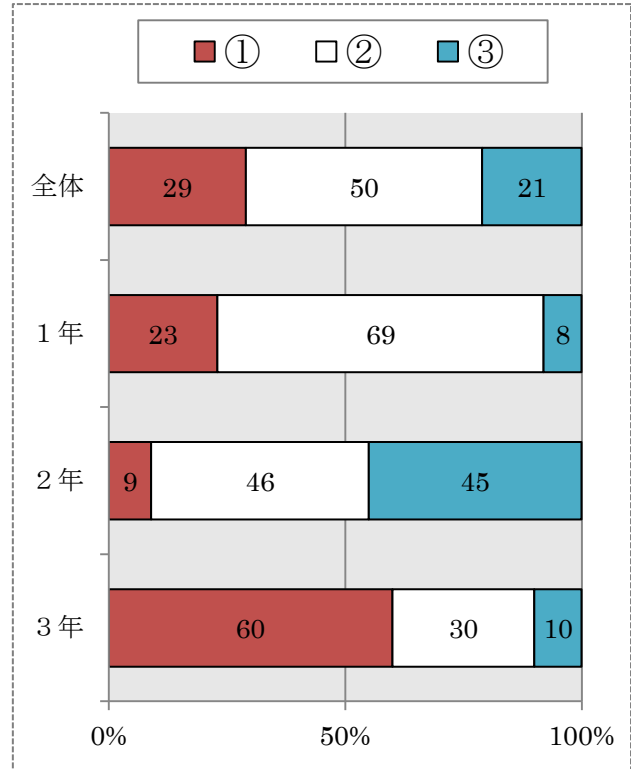
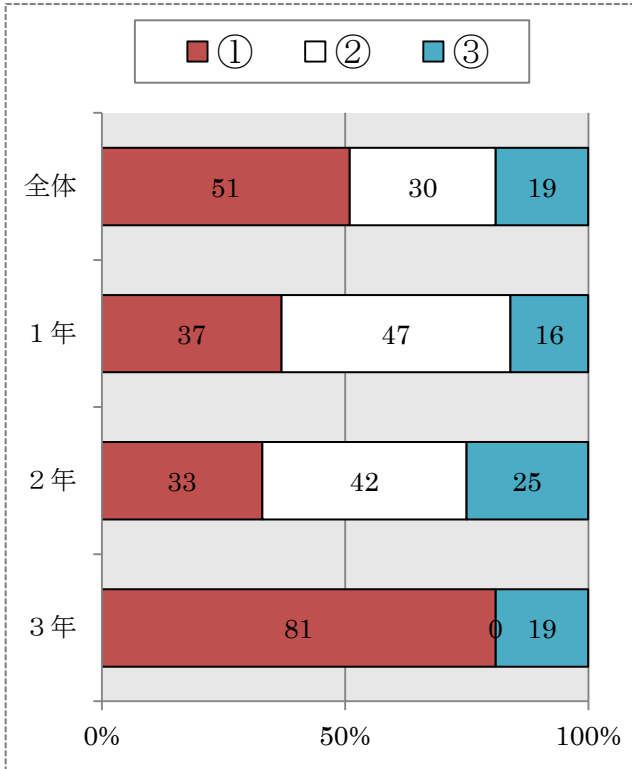
＜三和中＞

＜神石中＞



< 油 木 中 >

< 豊 松 中 >



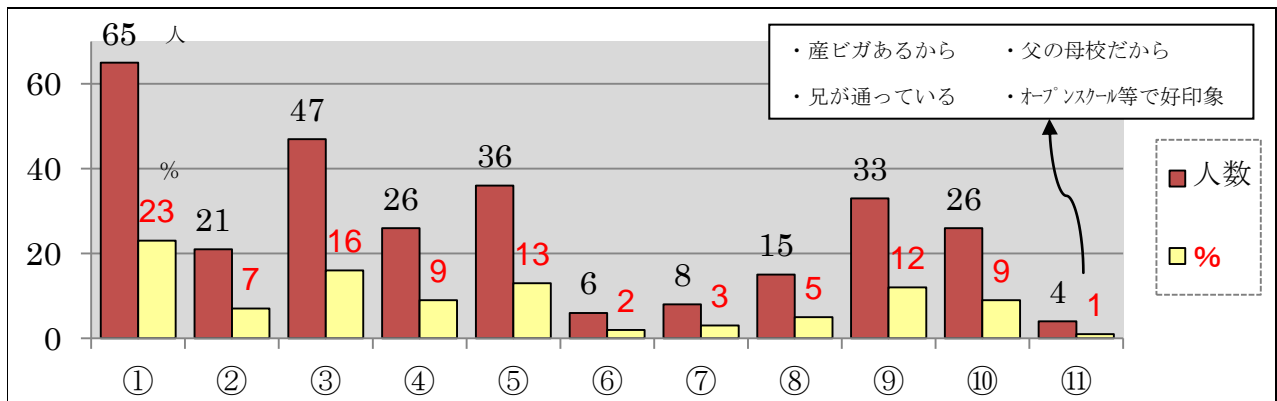
考察 4校全体で、油木高校への進学を「希望する」回答率(43%)は、昨年度より7%、一昨年度より14%アップしている。反対に「希望しない」(23%)は、昨年度より2%、一昨年度より8%減少していることから、徐々に取組みの成果が表れているのではないかと感じられる。

しかし、50%以上をクリアしているのは、中3生のみであり、反対に「希望しない」回答率が一番高いのは中2生である。それだけに連携教育の本格実施初年度である来年度の取組みが大変重要になってくる。また、1・2年生で「わからない」が最も多いだけに、更に取組みを上げていく必要がある。

(2) 3(1)の質問で「① 思う」と答えた人で、その理由と思うものを次の中から選んでください。(複数回答可)

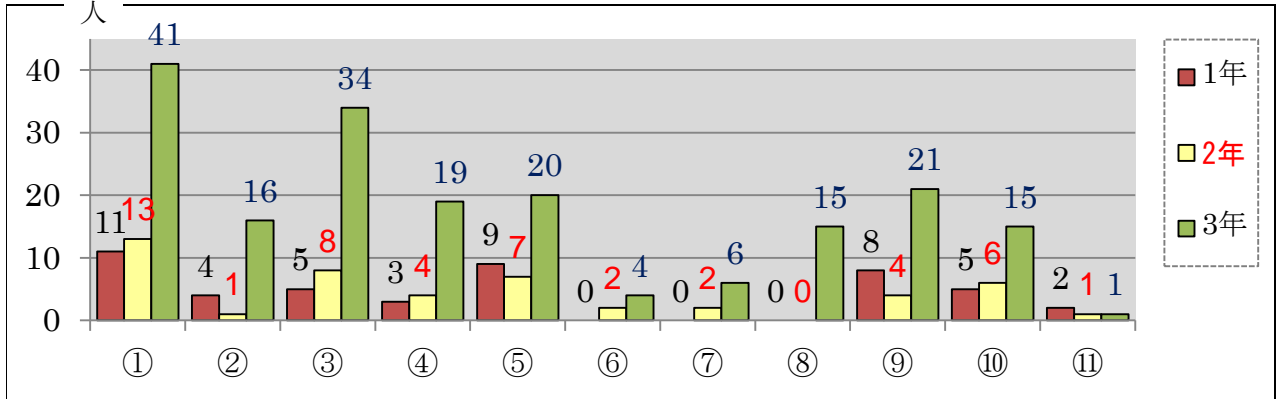
- ① 通学に便利 ② 進路実績 ③ 自分の希望 ④ 教育内容面 ⑤ クラブ活動面 ⑥ 寮がある
- ⑦ 施設設備がよい ⑧ 通信衛星授業が受けられる ⑨ 親・家族のすすめ ⑩ 友人関係 ⑪ その他

<4校全体では>



- ① 通学 zu 便利 ② 進路実績 ③ 自らの希望 ④ 教育内容面 ⑤ クラブ活動面 ⑥ 寮がある
 ⑦ 施設設備がよい ⑧ 通信衛星授業が受けられる ⑨ 親・家族のすすめ ⑩ 友人関係 ⑪ その他

<学年別の人数では>



考察 ・4校全体で多い順は、1位：①「通学 zu 便利」(23%)、2位：③「自らの希望」(16%)、3位：⑤「クラブ活動面」(13%)、4位：⑨「親・家族の薦め」(12%)と続いている。このことから、最も多く「通学 zu 便利」と答えているだけに、地元高校の存続を今後も堅持していく必要がある。

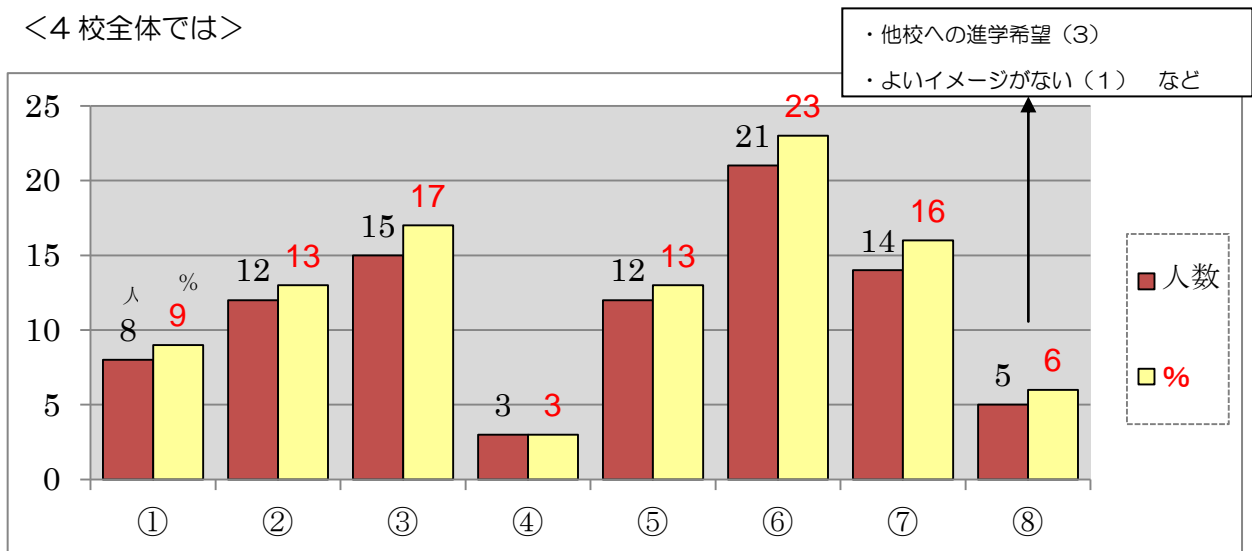
・各学年別においても、概して同じような傾向であるが、その中で特に特徴的と言えるのは、3学年だけが⑧「通信衛星授業が受けられる」ことを理由として上げている生徒が多い。

・高学年ほど多項目にわたって複数回答している生徒が多く見られる。これは、油木高校の良さを多方面にわたって感じていると思われる。そのことを低学年にも浸透するよう徐々にでも情報提供していく必要がある。

(3) 3(1)の質問で「② 思わない」と答えた人で、その理由と思うものを次の中から選んでください。(複数回答可)

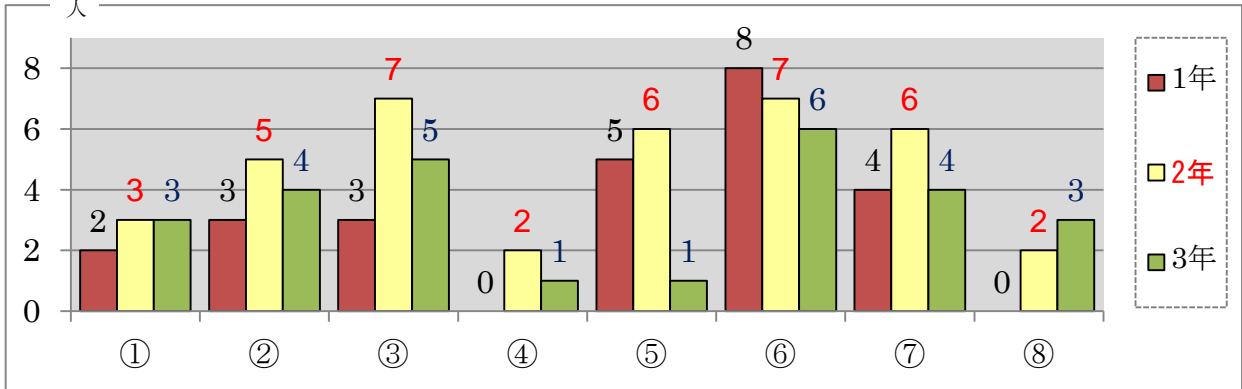
- ① 通学が不便 ② 教育内容面 ③ クラブ活動面 ④ 施設設備面
 ⑤ 希望の学科がない ⑥ 高卒後の進路面で ⑦ 友人関係 ⑧ その他

<4校全体では>



- | | | | |
|------------|------------|----------|---------|
| ① 通学が不便 | ② 教育内容面 | ③ クラブ活動面 | ④ 施設設備面 |
| ⑤ 希望の学科がない | ⑥ 高卒後の進路面で | ⑦ 友人関係 | ⑧ その他 |

<学年別の人数では>



考察 ・ 4校全体で多いのは、1位：⑥「高卒後の進路面で」(23%)、2位：③「クラブ活動面」(17%)、3位：⑦「友人関係」(16%)となっており、1・2位は昨年度と同様で、違うのは3位の「教育内容面」であった。そこで「高卒後の進路面」について、本年度もそのことを意識して「油木高校の進路実績」を中学生や保護者にアピールしてきたが、今後も粘り強くアピールしていく必要がある。また、進路実績における油木高校の有利性（少人数によるきめ細やかな進路指導など）も具体的に説明していく必要がある。

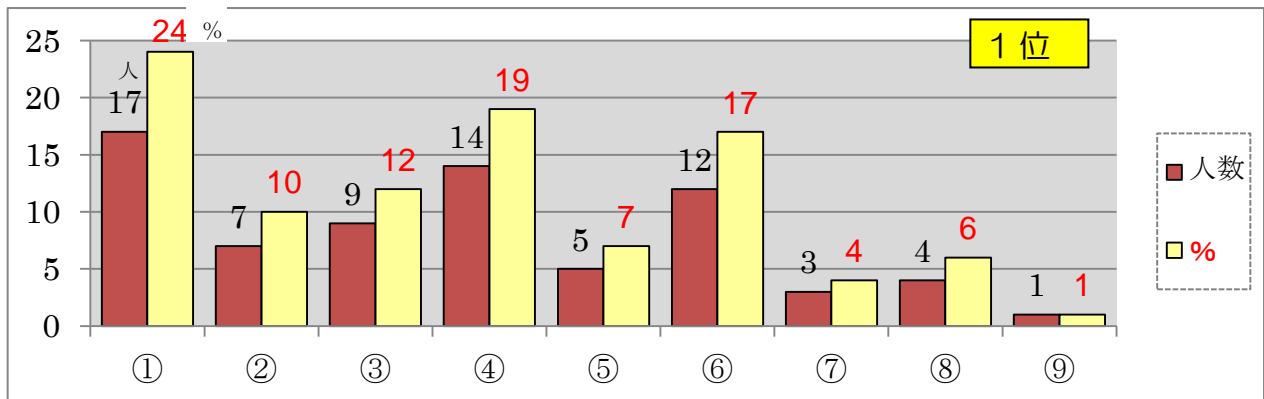
・「クラブ活動面」においても、小規模校でのデメリットもあるがメリットもあり、尚且つ、油木高校には体育・文化クラブ両面で全国に羽ばたく先輩もいることをアピールしていければと考える。

・「友人関係」で一緒に学校を選択する場合とそうでない場合がある。そのような意味から、中学時代の人間関係づくりが重要になってくる。即ち、学級づくりがキーポイントにもなりうる。

(4) 3(1)の質問で「③ わからない」と答えた人で、今後自分が進路選択する（高校を選ぶ）上で、重要視したいことはどんなことですか。下記の①～⑨の中から重要視したい順番に2つ選び、番号で教えてください。

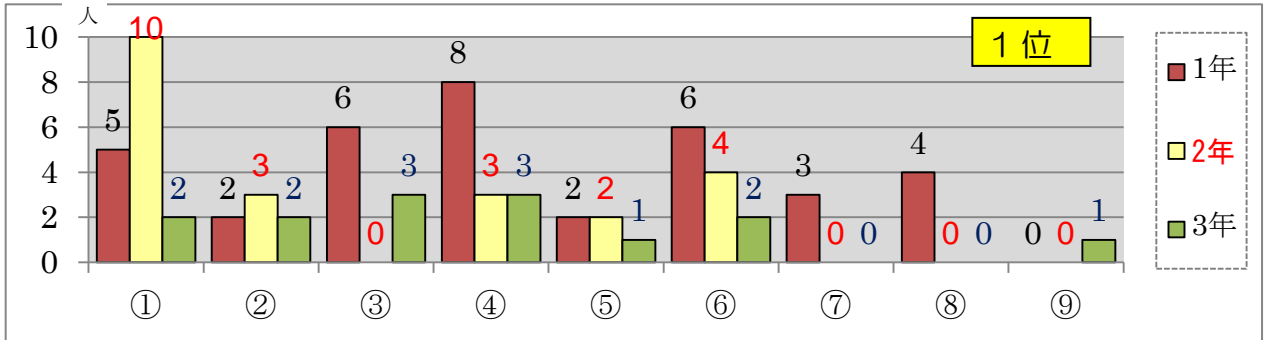
- | | | | | |
|----------|------------|--------|---------|---------|
| ① 通学便 | ② 伝統や校風 | ③ 進路実績 | ④ 教育内容面 | ⑤ 施設設備面 |
| ⑥ クラブ活動面 | ⑦ 親や家族のすすめ | ⑧ 友人関係 | ⑨ その他 | |

<4校全体では>

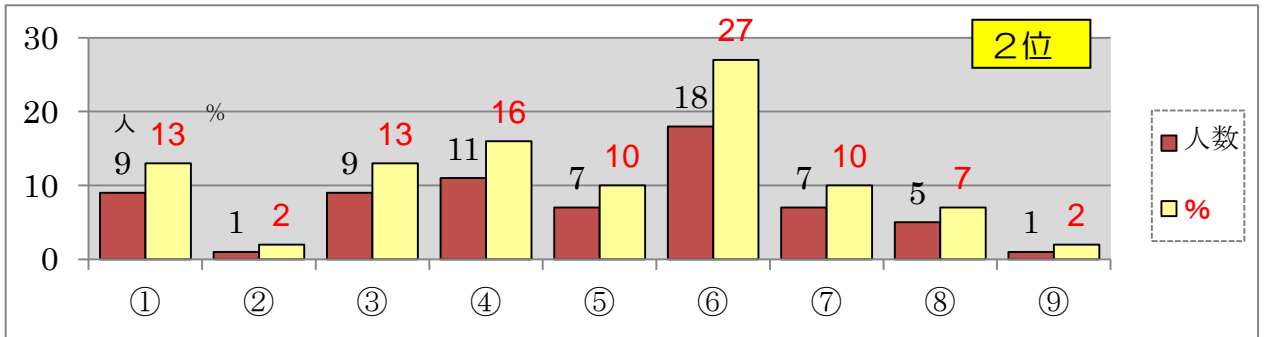


- ① 通学便 ② 伝統や校風 ③ 進路実績 ④ 教育内容面 ⑤ 施設設備面
 ⑥ クラブ活動面 ⑦ 親や家族のすすめ ⑧ 友人関係 ⑨ その他

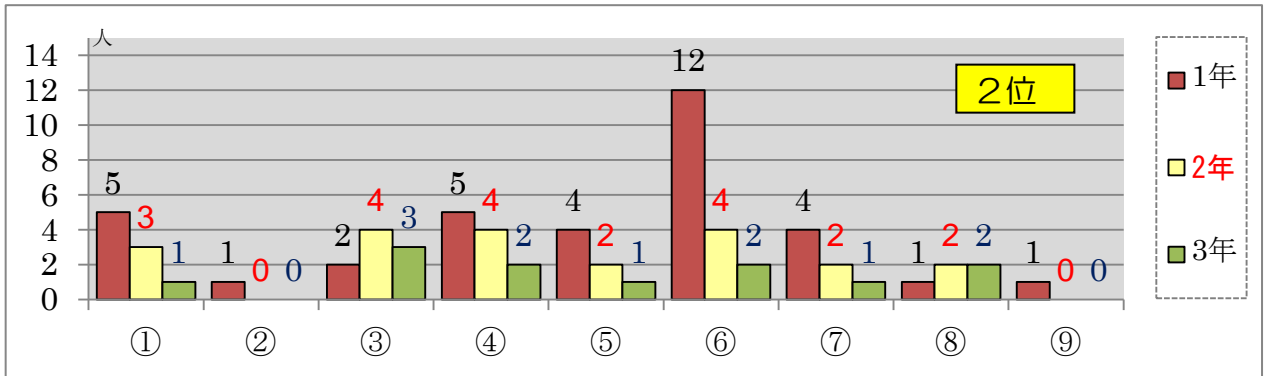
<各学年別の人数では>



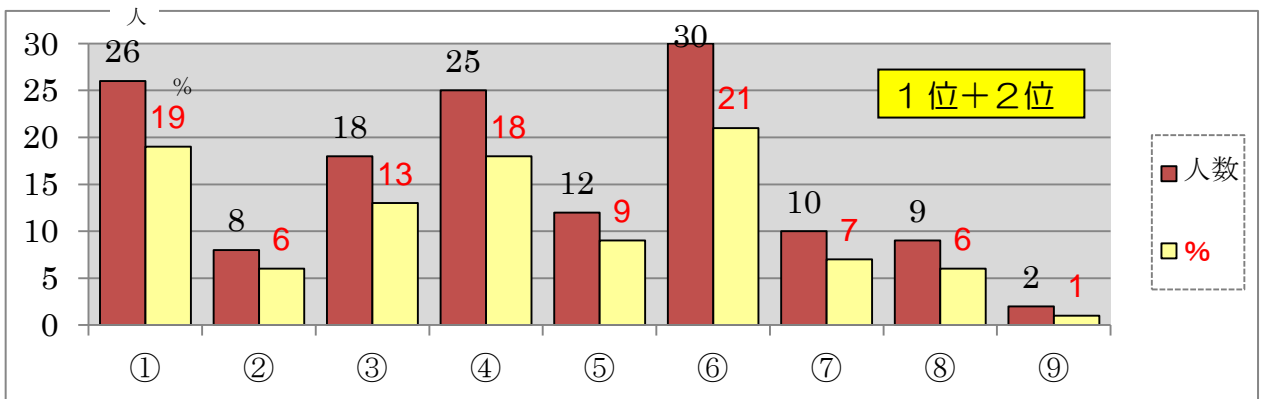
<4校全体では>



<各学年別の人数では>

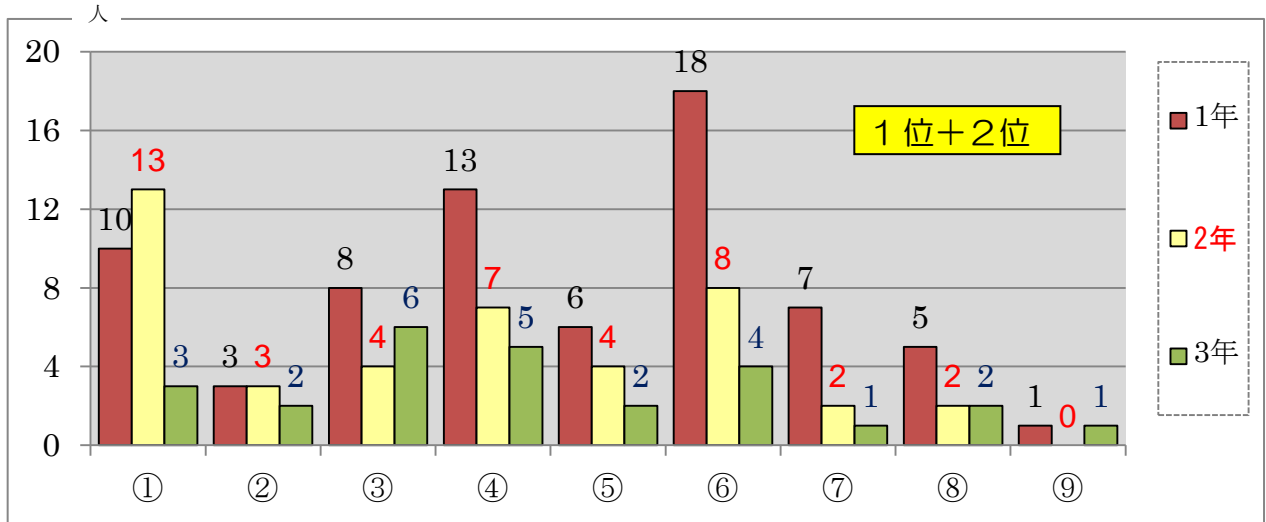


<4校全体では>



- | | | | | |
|----------|------------|--------|---------|---------|
| ① 通学便 | ② 伝統や校風 | ③ 進路実績 | ④ 教育内容面 | ⑤ 施設設備面 |
| ⑥ クラブ活動面 | ⑦ 親や家族のすすめ | ⑧ 友人関係 | ⑨ その他 | |

<各学年別の人数では>



考察 ・4校全体での **1位** で多い順は、1位：①「通学便」(24%)、2位：④「教育内容面」(19%)、3位：⑥「クラブ活動面」(17%)、4位：③「進路実績」(16%)となっている。(昨年度は1位：③「進路実績」(24%)、2位：④「教育内容面」(22%)、3位：①「通学便」(17%)、4位：⑥「クラブ活動面」(16%))

・4校全体での **2位** で多い順は、1位：⑥「クラブ活動面」(27%)、2位：④「教育内容面」(16%)、3位：①「通学便」③「進路実績」(13%)となっている。

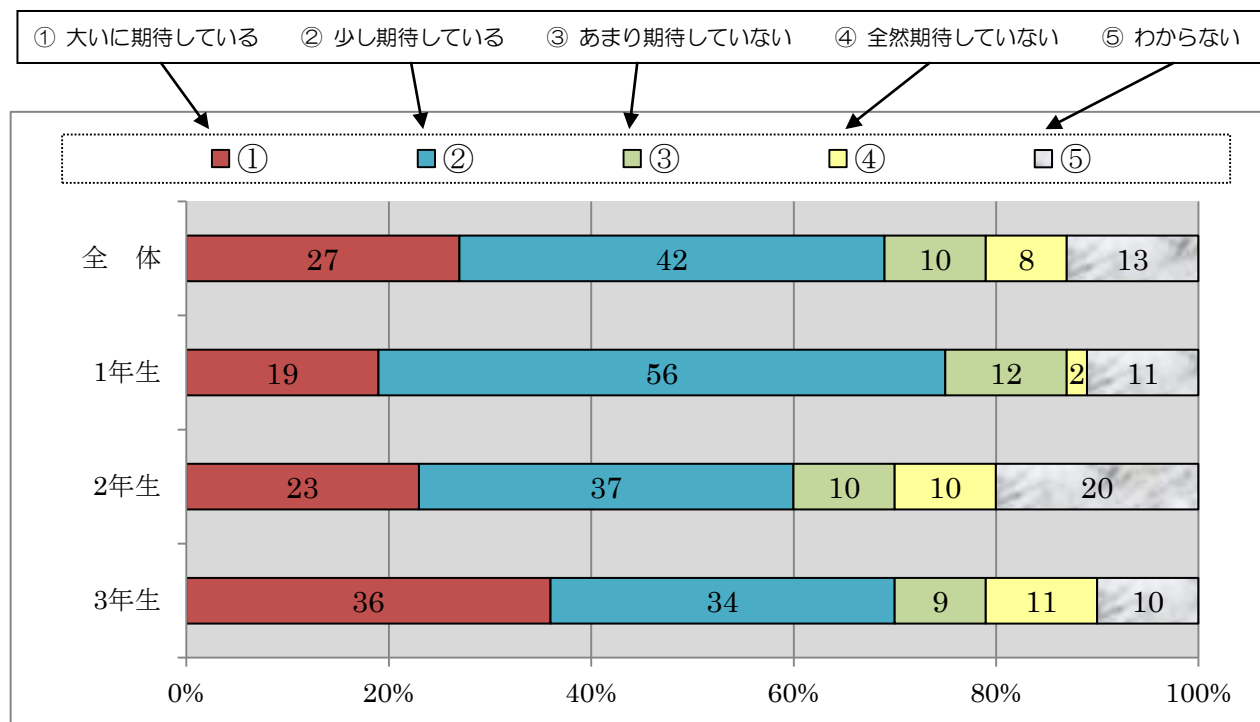
・4校全体での **1位+2位** で多い順は、1位：⑥「クラブ活動面」(21%)、2位：①「通学便」(19%)、3位：④「教育内容面」(18%)、4位：③「進路実績」(13%)となっている。

・**各学年別** に見たときの特徴と言えることは、1学年はと⑥「クラブ活動面」と④「教育内容面」が非常に多いが、2年生は①「通学便」が突出して多い。3年生についてはどちらかというが多岐に分散化した傾向にある。

以上の結果から、生徒が高校選択する時の重要項目は、「クラブ活動面」「通学便」「教育内容面」「進路実績」が多いと思われる。よって、それらが充実していくような支援策を検討していく必要がある。

また、1、2年生には油木高校の様々な状況（教育内容・教育環境・実績等）をもっと知ってもらうための情報提供を今後も継続していく必要がある。

(5) 来年度から油木高校と町内中学校は連携型中高一貫教育校になり、本格的に連携教育（例：交流授業、部活動交流、合同行事など）が実施されますが、そのことについてどう思いますか。

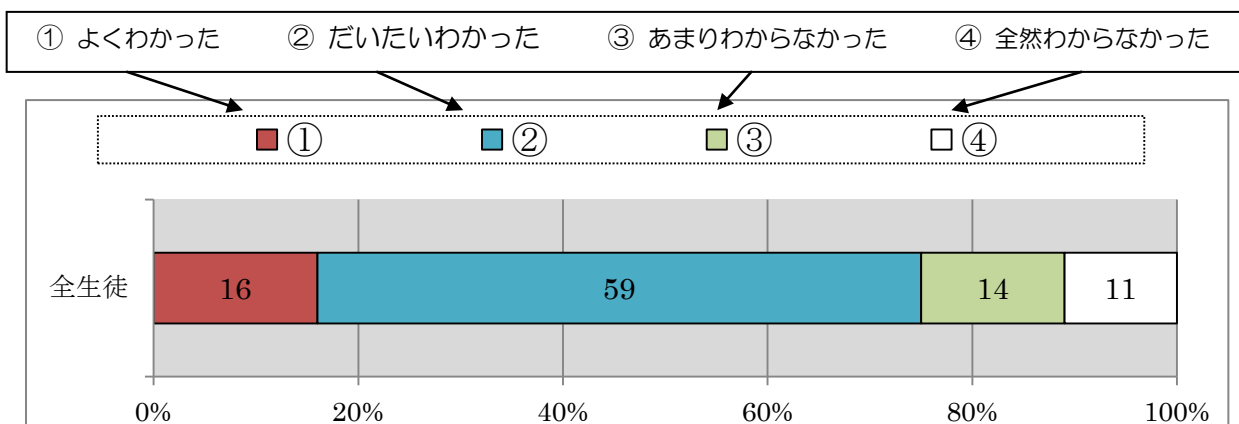


考察 全体としては、「期待している」の肯定的評価約 70%、「期待しない」の否定的評価約 20%、「わからない」が約 10%で、多くの生徒が期待感をもっている。

それだけに、その期待感を裏切らないような連携教育の中身づくりをしていく必要がある。ただ、あまり急ぎ過ぎると相互に負担がかかり過ぎて、逆効果にもなりかねないので、徐々に取組みを進めていくことが大切である。

Ⅱ. 連携型中高一貫教育に係るアンケート調査（高校生）の結果と考察

1 本年度、油木高生全員に広報紙「連携型中高一貫教育」ジャンル『高原の風』を配布しましたが、内容的にどうでしたか。



考察 本年度も高校生全員に毎回広報紙を配布してきましたが、大半の生徒（75%）は「内容的に分かった」という肯定的評価である。しかし、「わからない」という否定的評価が25%と4分の1を占めており、今後一層の工夫が必要である。（ちなみに、中学生の肯定的評価は86%、否定的評価は14%である。）

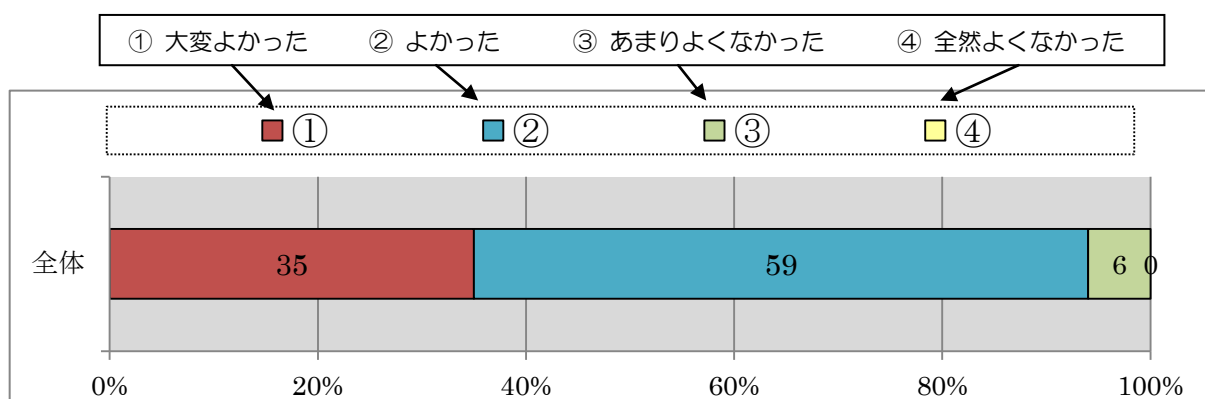
2 (1) あなたは本年度、中高連携で町内の中学生を指導したり、一緒に活動したことがありますか。

「ある」と答えた生徒は 17人（11%）、昨年度26人（15%）より減少している。

活動内容としては

・部活動（15人） ・授業〈技術科〉（1人） ・オープンスクール（1人）

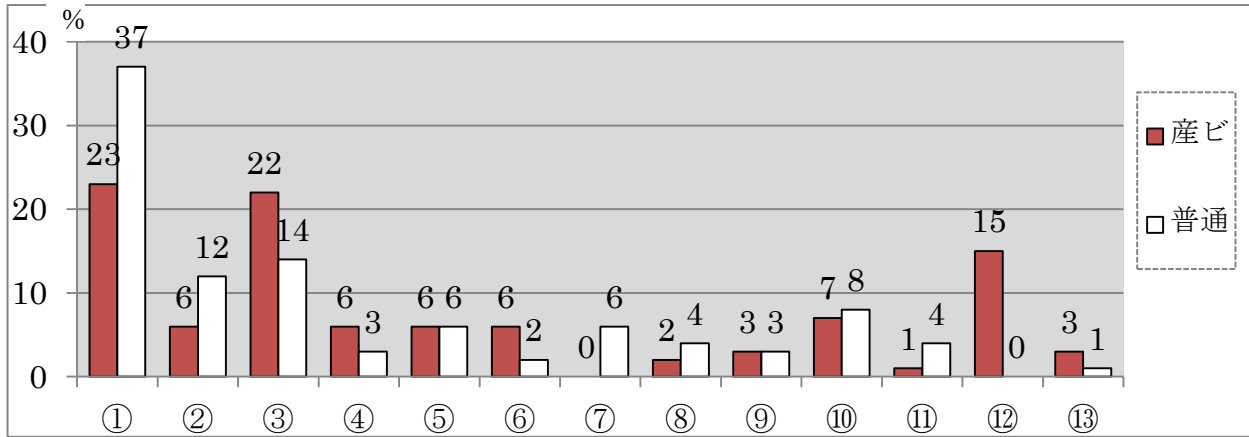
(2) (1)の質問で「①ある」と答えた人で、それはどうでしたか。



考察 活動内容や回数は、昨年度よりも減少しているが、体験した生徒にとっては、中高生共に大多数の生徒が好感をもっており、今後できるだけ実践の機会を増やしていけるように努めていく必要がある。生徒交流では、特に部活動交流を中心として取り組んでいく。

③ あなたが油木高校を進路選択した理由は何ですか。(複数回答可)

- | | | | |
|----------|-----------|-------------|-----------|
| ① 自宅から近い | ② 親・家族の薦め | ③ 自分の希望 | ④ 教育内容面 |
| ⑤ クラブ活動面 | ⑥ 寮がある | ⑦ 通信衛星授業がある | ⑧ 進学就職に有利 |
| ⑨ 評判 | ⑩ 友人関係 | ⑪ 経費が安い | ⑫ 学科への興味 |
| ⑬ その他 | | | |

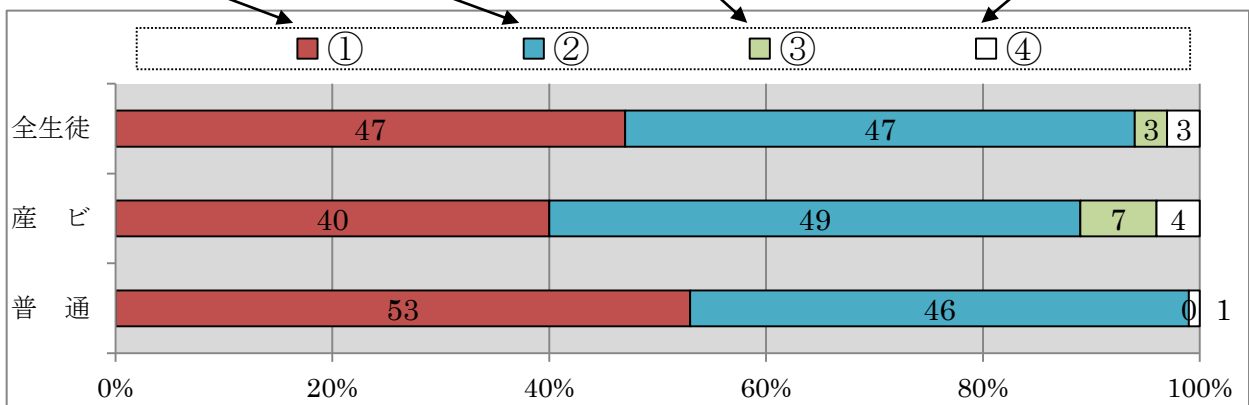


⑬ 「その他」の内容
 ・特に理由なし (1) ・自分の学力に相応 (1) ・担任の薦め (1) ・楽しそう (1) ・少人数 (1) など

考察 産ビ・普通科共に最も多かった理由は、①「自宅から近い」で、地元高校を是非とも存続させていく必要がある。その他で多かったのは、③「自分の希望」②「親・家族の薦め」⑩「友人関係」などであるが、学科で特徴的な理由としては、産ビで⑫「学科への興味」、普通科は⑦「通信衛星授業がある」であった。昨年度との比較においても大きな差異はない。

④ あなたは油木高校へ進学して、どうですか。

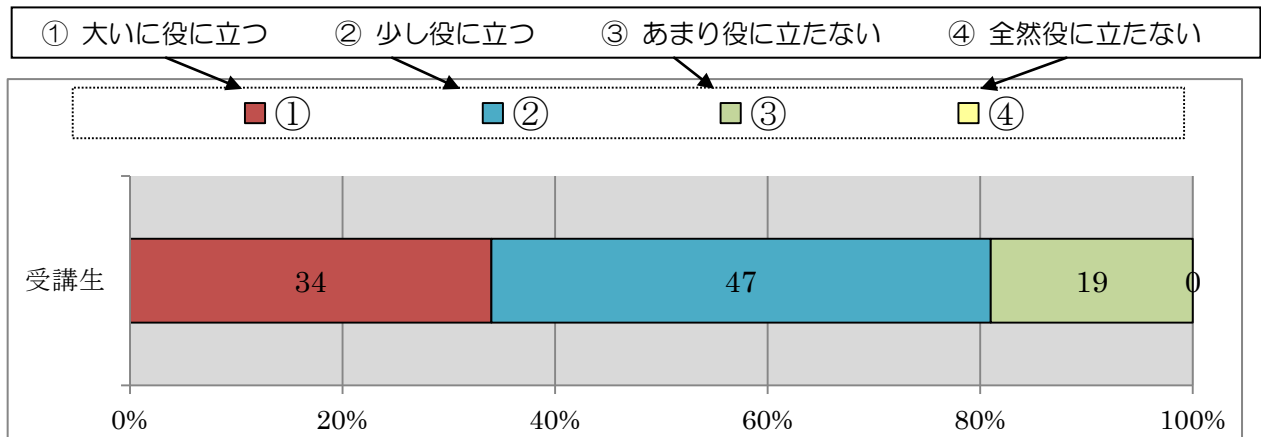
- | | | | |
|----------|--------|-------------|------------|
| ① 大変よかった | ② よかった | ③ あまりよくなかった | ④ 全然よくなかった |
|----------|--------|-------------|------------|



考察 全体的にはほとんどの生徒 (94%) が「よかった」と肯定的評価をしている。中でも、「大変良かった」と満足している生徒が半数近く (47%) いる。
 科ごとにみた時、「よくなかった」と否定的評価をしている生徒は、産ビ 11%、普通科 1%と産ビが多い。その中で、「全然よくなかった」とする生徒が、産ビ 4%、普通科 1%いる。その要因は何か追究できるとよい。

⑤ 通信衛星授業を受けてみての感想はどうか？

[受講回答者 53 人 (普 : 44 人 , 産ビ : 9 人)]



● 「① 大いに役に立つ」理由として記入されていたものは

- ・分かりやすい (6)
- ・復習や授業に役立つ (4)
- ・学校以外のことが学べる (3)
- ・大学受験や模試に役立つ (2)
- ・有名講師の授業を安価で受けられる (1)
- ・楽しい先生が多い (1)

● 「② 少し役に立つ」理由として記入されていたものは

- ・分かりやすい (3)
- ・とにかく勉強になる (2)
- ・復習ができる (2)
- ・入試対策によい (1)
- ・先生が面白い (1)
- ・時々内容が難しい (1)

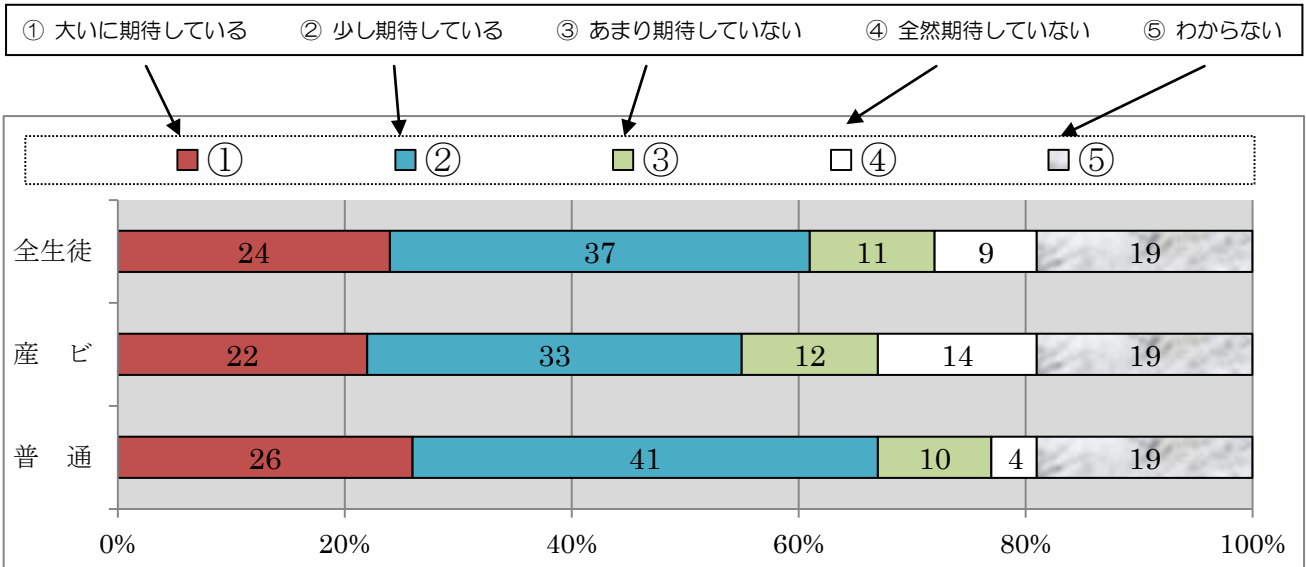
● 「③ あまり役に立たない」理由として記入されていたものは

- ・内容が難しい (3)
- ・ペースが速い (1)
- ・質問ができない (1)
- ・真面目に聞いてない人がいる (1)

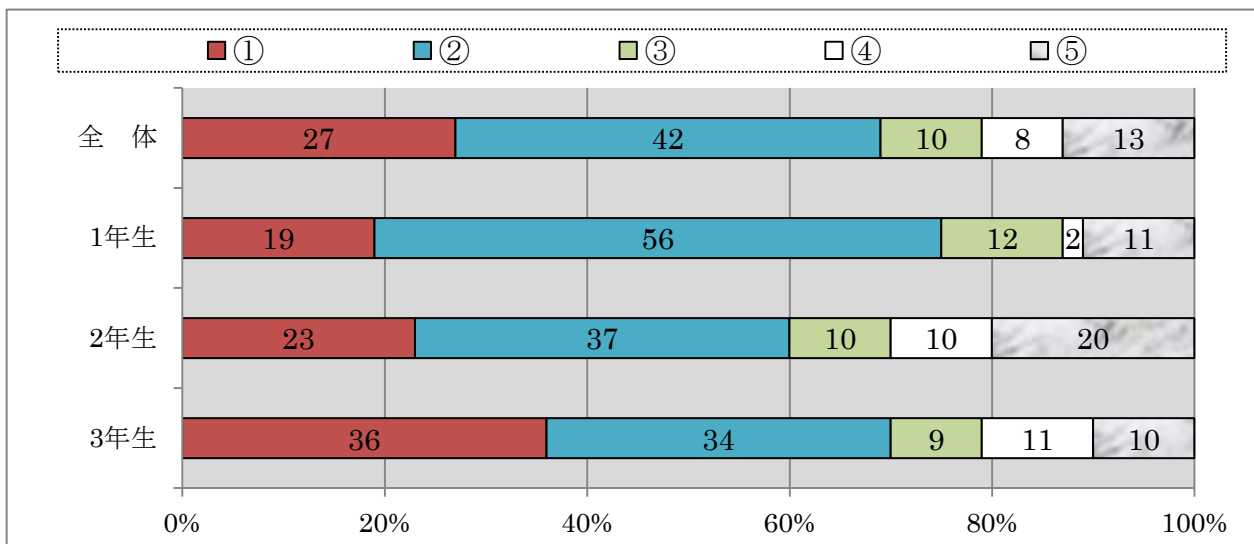
考察 受講生の多くは普通科生 (76%) であるが、大多数の生徒 (92%) が「役に立つ」という肯定的回答であった。中でも「センター試験や大学受験に役立つ」と感じていることなどからも、今や普通科・産業ビジネス科共に大学進学志望者が多くなっていることから、この事業は続けていく必要がある。

また、前記の問③ (油木高校を選択した理由) から分かるように、普通科生の選択理由に「通信衛星授業がある」ことを上げている者が多いことから、この事業の継続が必要であると言える。

⑥ 来年度から油木高校と町内中学校は連携型中高一貫教育校になり、本格的に連携教育（例：交流授業、部活動交流、合同行事など）が実施されますが、そのことについてどう思いますか。



中学生の回答状況



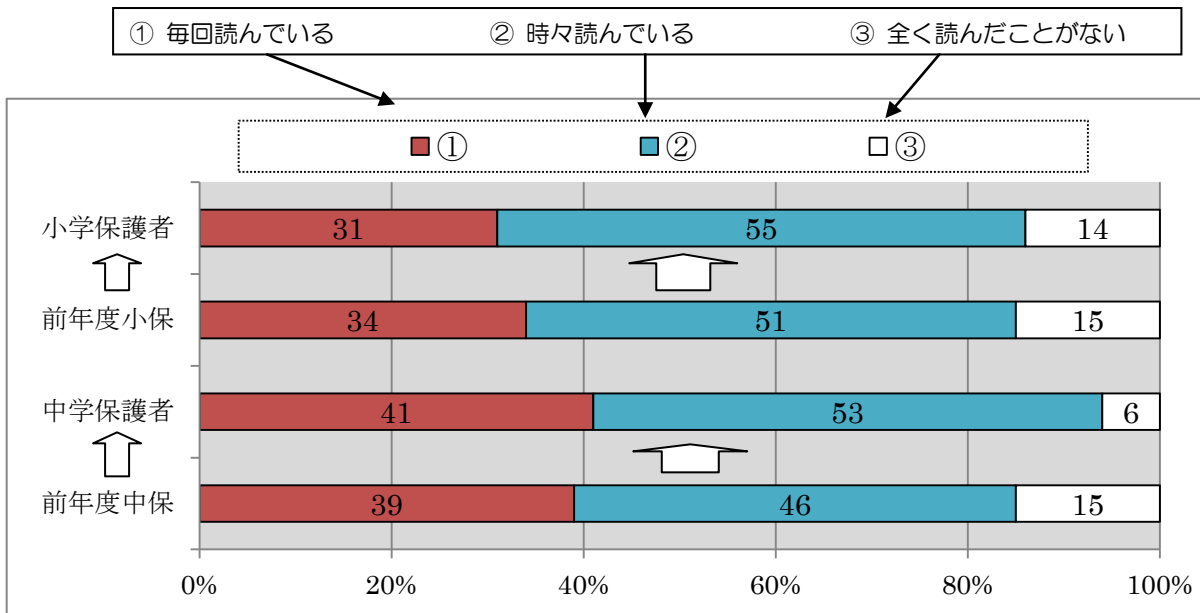
考察 全体としては、「期待している」の肯定的評価 61%、「期待しない」の否定的評価 20%、「わからない」が 19%で、多くの生徒が期待感を持っているが、中でも普通科生の期待感が大きい。産比との連携教育も創造していく必要がある。一方、中学生と比較してみると、あまり大差はなかった。

アンケート調査の中で、「どんなことに期待しているか」を問うてみる必要もあった。（次回への課題）

いずれにせよ、生徒の期待感を裏切らないような連携教育の中身づくりをしっかりとしていく必要がある。

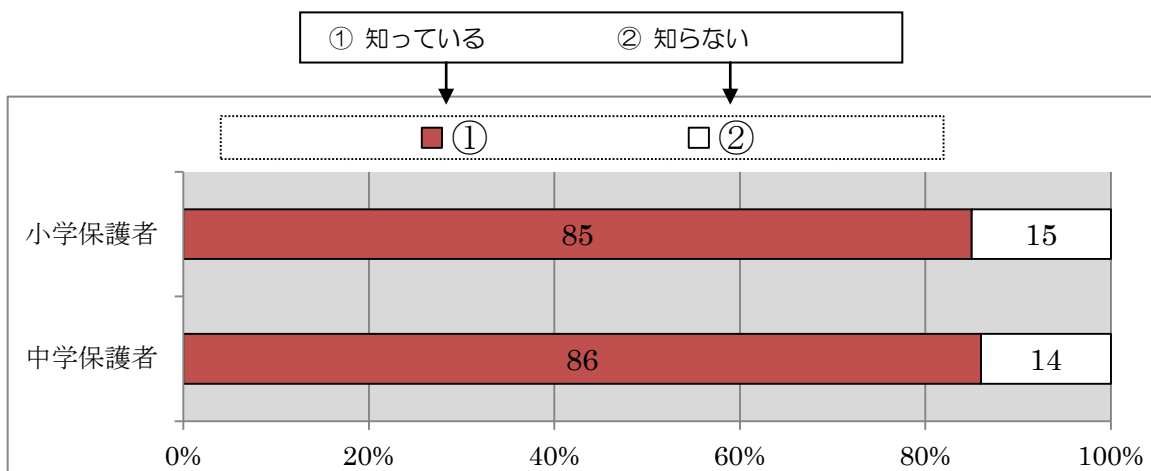
Ⅲ.連携型中高一貫教育に係るアンケート調査(小・中学校保護者)の結果と考察

① 広報紙「連携型中高一貫教育」yearly『高原の風』を年3回町内全戸に配布していますが、読んだことがありますか。



考察 本年度も前年度より「読んでいる」の肯定的評価が5%ほど伸びた。特に中学保護者が9%伸びている。今後一層魅力ある中身づくりに努めながら、情報提供していく必要がある。

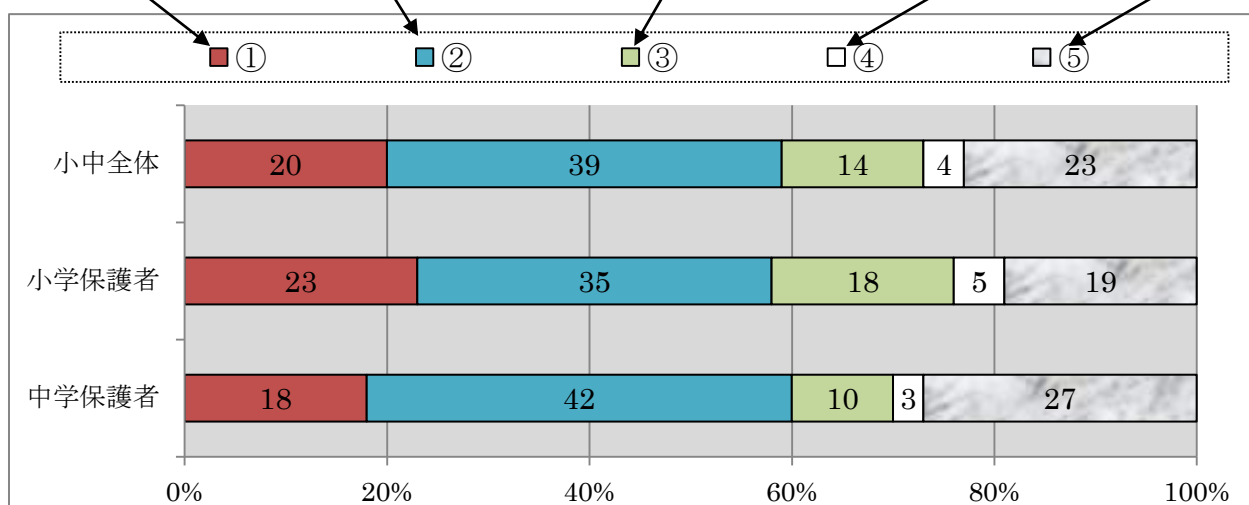
② 平成 26 年 4 月から油木高校と町内中学校は連携型中高一貫校として連携教育が本格実施されることを知っておられますか。



考察 小中学校共に大多数の保護者が「平成 26 年 4 月からの本格実施」を知っておられる。これは、これまで「平成 26 年度からの本格実施」を目標として取組んできた成果でもあると思われる。
多くの保護者が知っておられるだけに、「連携型中高一貫教育校になってよかった」と思われるような実践をしていく必要がある。

③ 来年度から油木高校と町内中学校との連携教育（例：交流授業、部活動交流、合同行事など）が本格実施しますが、そのことについてどう思いますか。

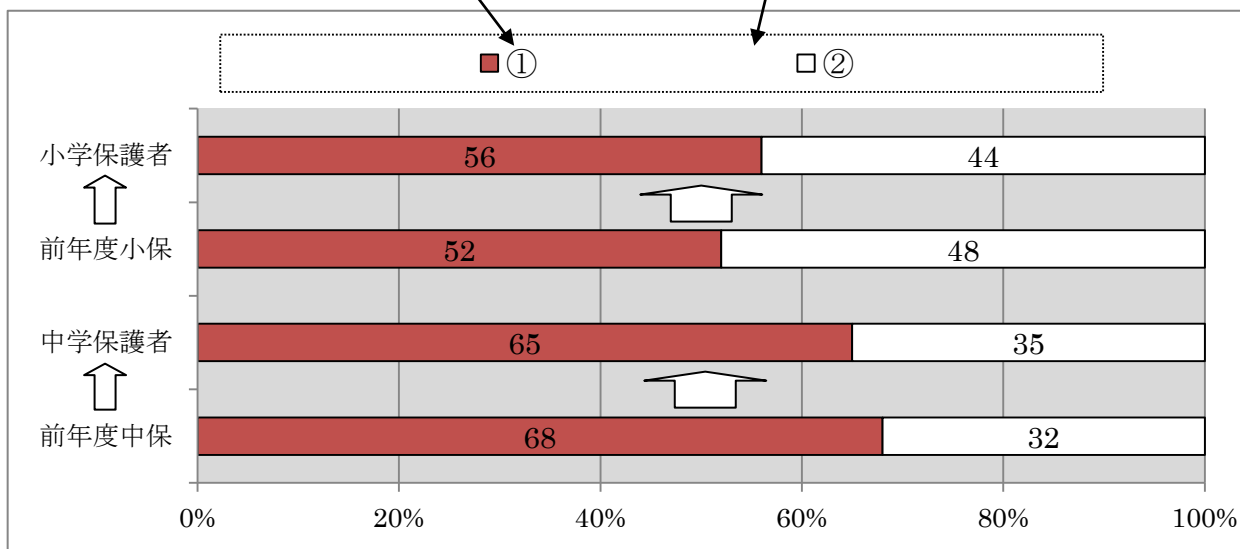
① 大いに期待している ② 少し期待している ③ あまり期待していない ④ 全然期待していない ⑤ わからない



考察 全体的には半数以上（59％）の者が「期待」をもっておられることから、その期待に応えるべく連携実践を通して教育効果を高め、教育実績を上げていく必要がある。
そのことによって、否定的評価も減少していくものと思われる。

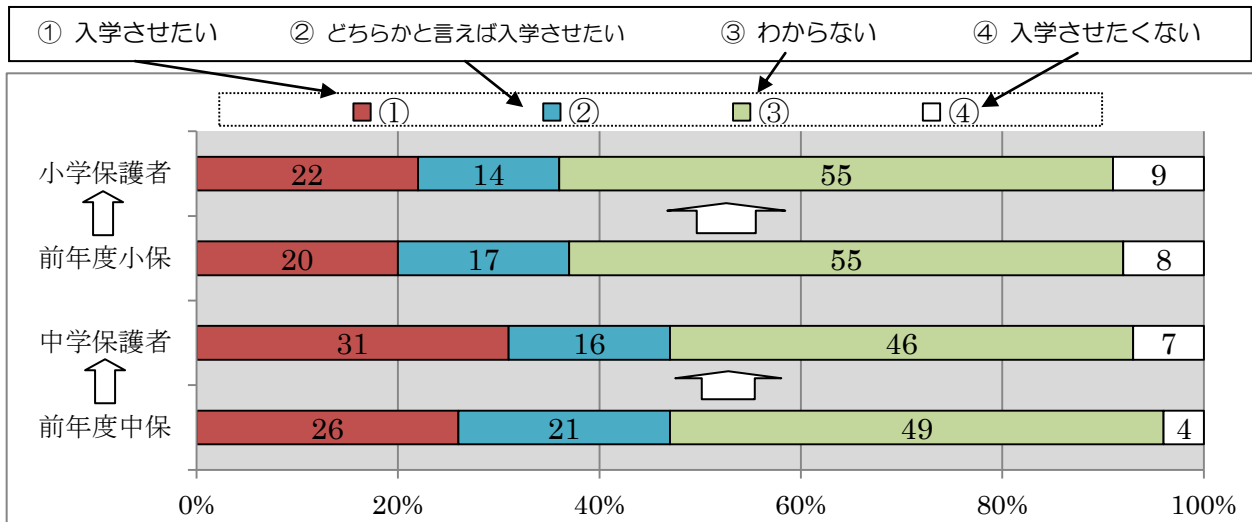
④ 本町が油木高校の教育活動推進や保護者負担軽減のために助成していることを知っておられますか。

① 知っている ② 知らない

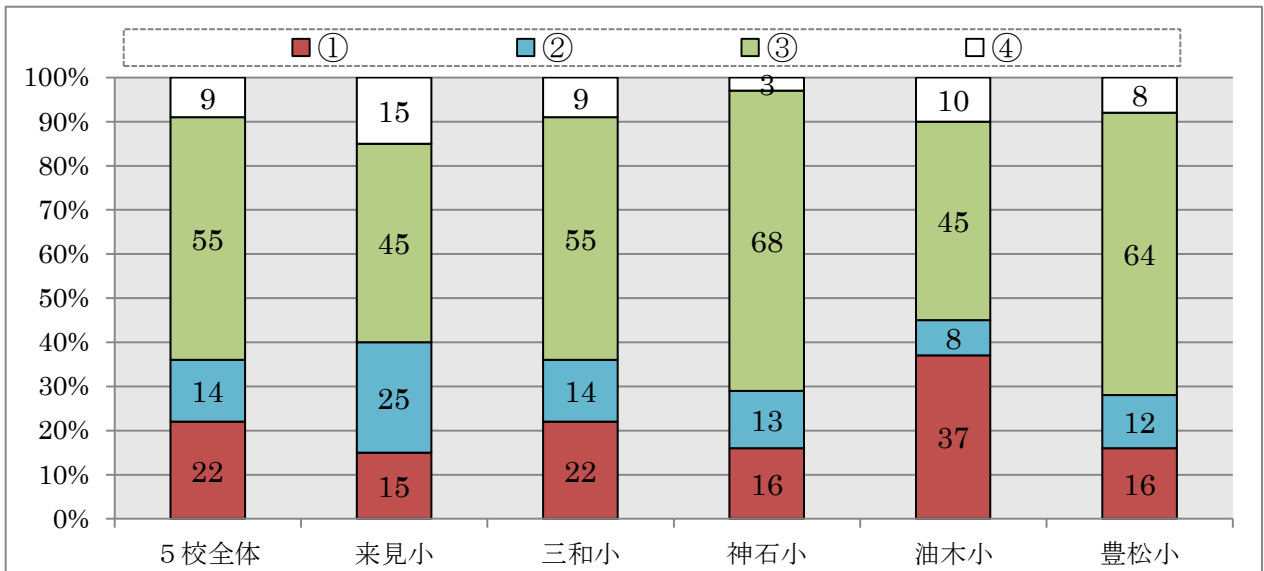


考察 小中学校共に前年とあまり大差のない状況で推移している。
これまでも、広報紙や講演会、学校説明会等で機会あるごとに油木高校への支援について説明してきたが、今後も引き続き、他校にはない有利性を保護者へアピールしていく必要がある。
また、今後一層の支援策を検討していくこともアピールしていかなければならない。

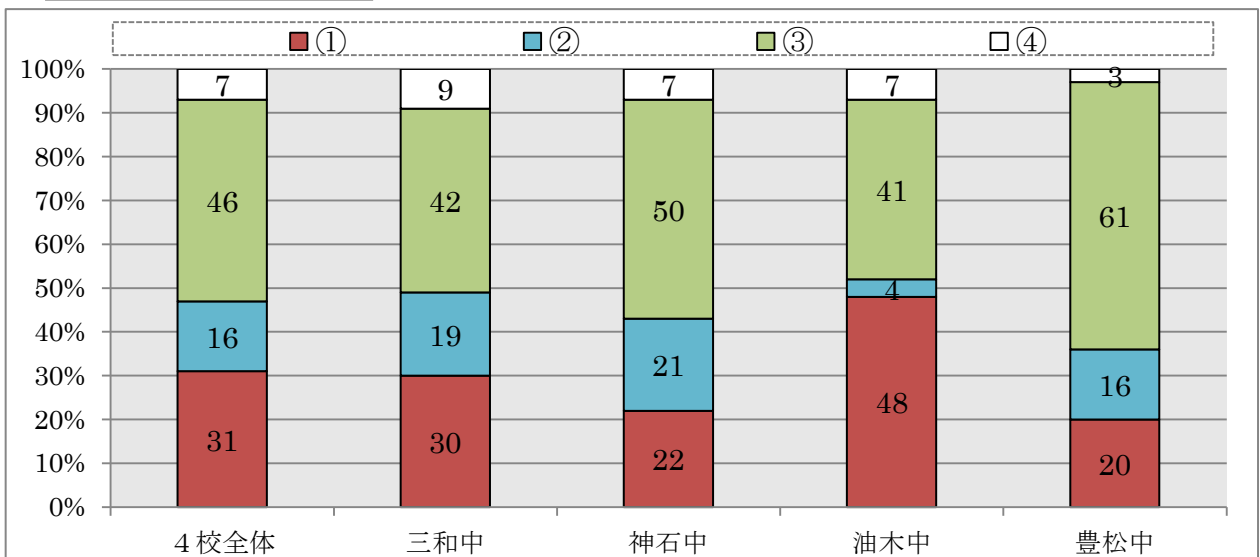
⑤ あなたの子どもさんを油木高校に進学させたいと思いますか。



<各小学校別では>



<各中学校別では>



考察 ・小中学校別では、「入学させたい」肯定的評価が11%中学校が上回っている。一方、小学校はまだ高校への進路選択を具体的に考えにくいのか、「わからない」との回答率が9%小学校の方が高い。

・昨年度比では、あまり大きな変化はないが、「入学させたい」が小中学校共に若干上がっている。しかし、反対に「入学させたくない」は、多少ではあるが小中学校共に増加している。

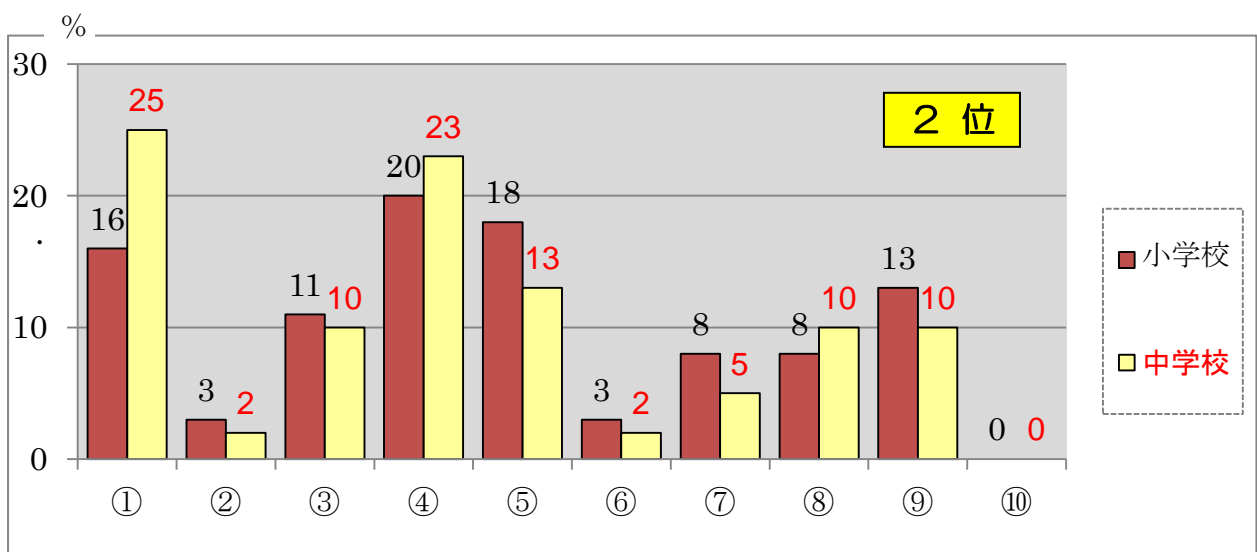
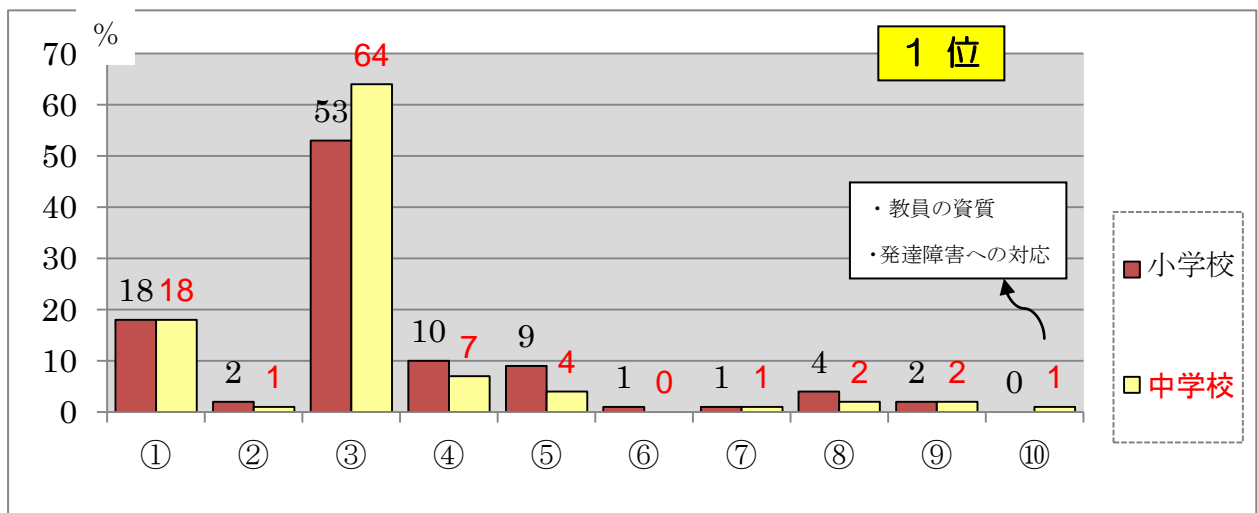
・各学校別では、油木・三和地区の肯定的評価が若干高い。しかし、「わからない」との回答率が約半数（小：55%，中：46%）であることから、今後の取組みによって「入学させたい」と思われるような教育実践や魅力づくりへ向けて、学校現場と教育行政との両面から努力していく必要がある。

・「入学させたくない」の回答率では、来見小学校（15%）と油木小学校（10%）が2桁の数字であった。

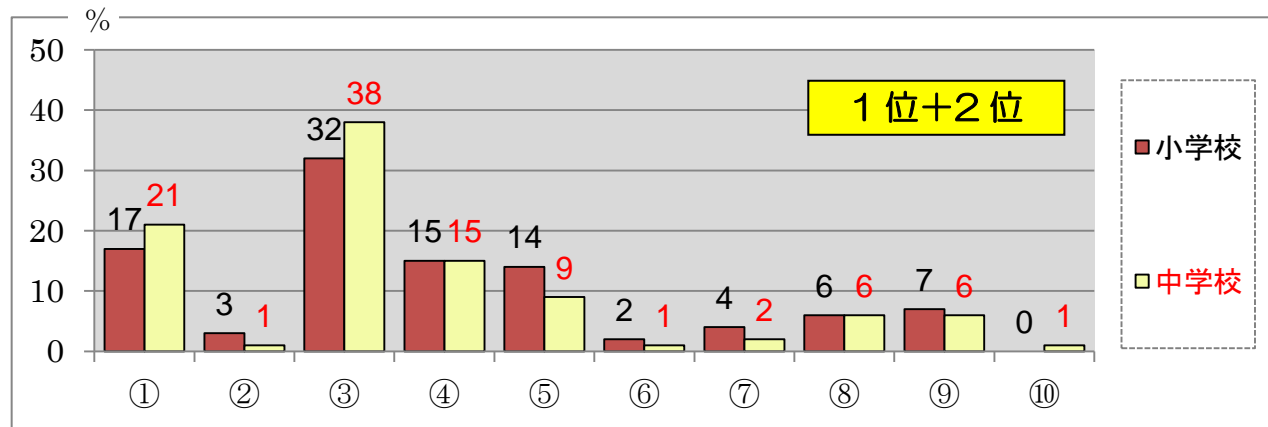
⑥ 子どもの高校進路選択をする上で、保護者として重要視したいことはどんなことですか。

下の①～⑩の中から重要視したい順番に2つ（1位・2位）選んでください。

- | | | | | |
|---------|----------|------------|---------|---------|
| ① 通学便 | ② 伝統や校風 | ③ 子ども本人の希望 | ④ 学習環境面 | ⑤ 教育内容面 |
| ⑥ 施設設備面 | ⑦ クラブ活動面 | ⑧ 進路実績 | ⑨ 経費面 | ⑩ その他 |



- ① 通学便 ② 伝統や校風 ③ 子ども本人の希望 ④ 学習環境面 ⑤ 教育内容面
 ⑥ 施設設備面 ⑦ クラブ活動面 ⑧ 進路実績 ⑨ 経費面 ⑩ その他



考察 全体的に言えることは、昨年度とまったく同様の結果が出ていることと、小中学校別においてもほとんど同じような結果であった。

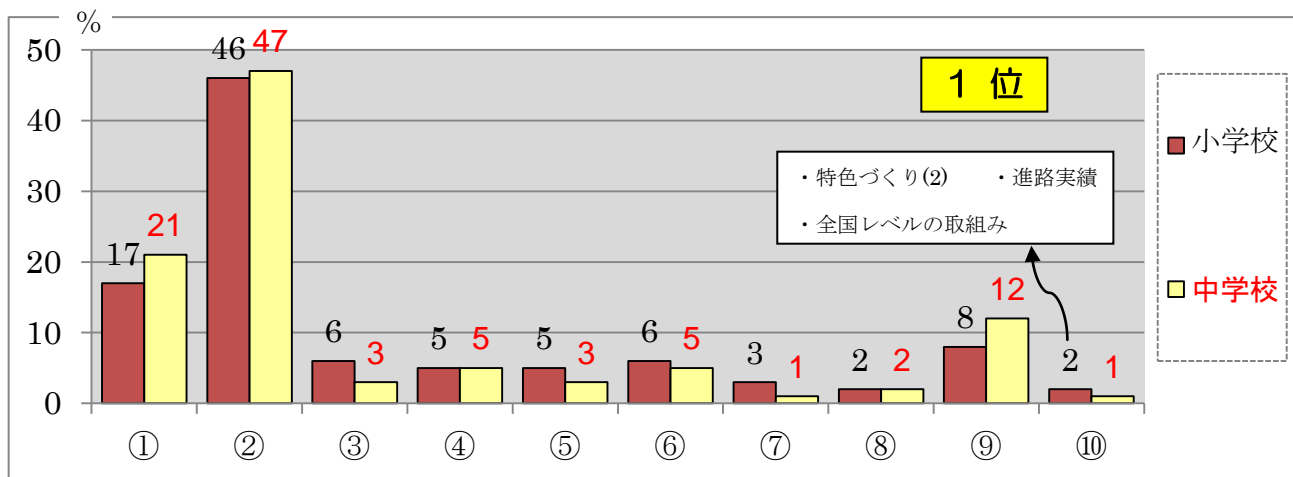
即ち、高校進路選択をする上で、保護者として重要視したいことと多いものとしては、③「子ども本人の希望」が小中学校共に際立って多く、続いて①「通学便」④「学習環境面」⑤「教育内容面」と続いている。

このことから、保護者の半数以上は「子ども本人の希望」を最優先される傾向にあり、児童・生徒への油木高校の理解や関心を深めていく取組みが重要である。

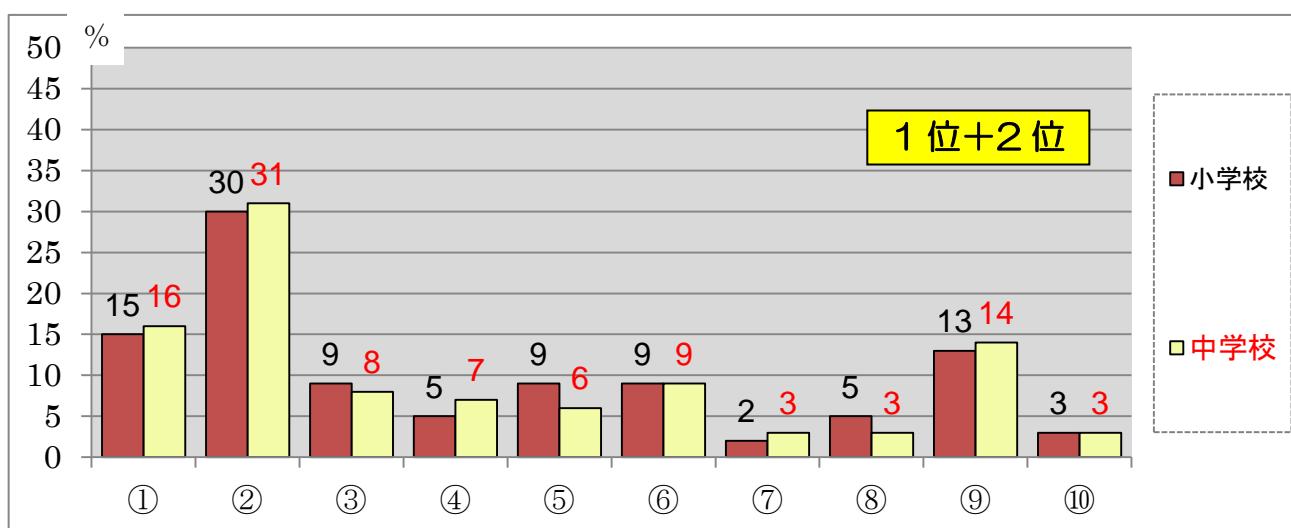
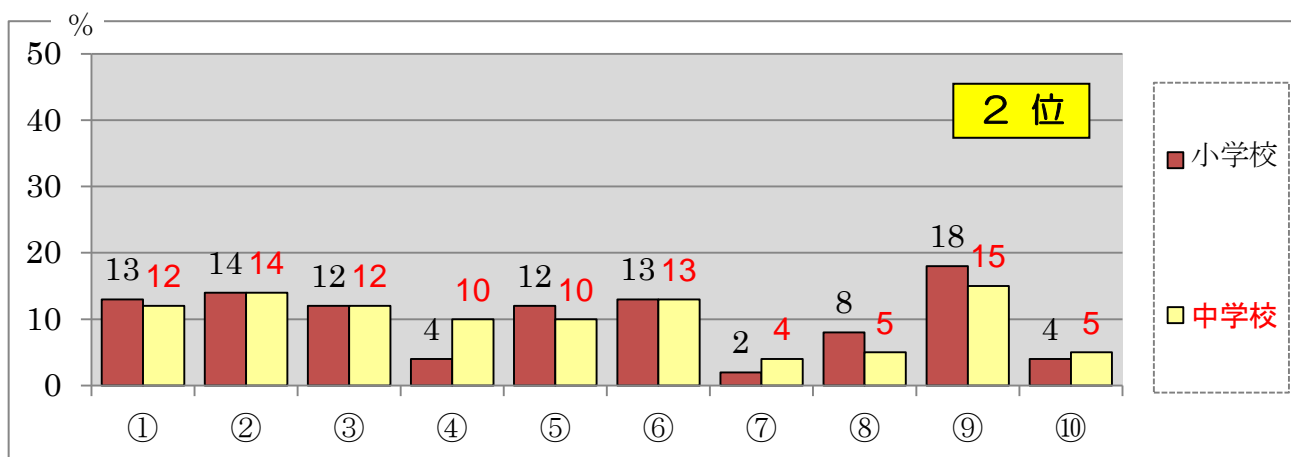
また、「通学便」もかなり重要度が高いことから一層の支援策を考え、魅力アップづくりにつなげていかなければならない。

7 油木高校の一層の魅力づくりとして、どんな支援策が必要だと思いますか。
 右の①～⑩の中から必要度の高い順番に2つ（1位・2位）選んでください。

- ① 通学便に係る支援 ② 学力充実への支援 ③ 部活動への支援 ④ 産業ビュ` 初科の取組支援
 ⑤ 町内就職に係る支援 ⑥ 施設設備充実への支援 ⑦ PR活動 ⑧ 豊かな心の育成支援（芸術鑑賞など）
 ⑨ 生徒への研修費補助（海外研修、農業研修など） ⑩ その他



- ① 通学便に係る支援 ② 学力充実への支援 ③ 部活動への支援 ④ 産業ビジ 祓科の取組支援
 ⑤ 町内就職に係る支援 ⑥ 施設設備充実への支援 ⑦ PR 活動 ⑧ 豊かな心の育成支援（芸術鑑賞など）
 ⑨ 生徒への研修費補助（海外研修、農業研修など） ⑩ その他



考察 1位グループ、2位グループ、1位+2位グループともに小中学校別での違いや前年との比較においてもあまり変化は見られず、押し並べて同じような傾向であった。

即ち、保護者の多くは「学力充実への支援」、「通学便に係る支援」、「生徒への研修費補助」を望まれている。

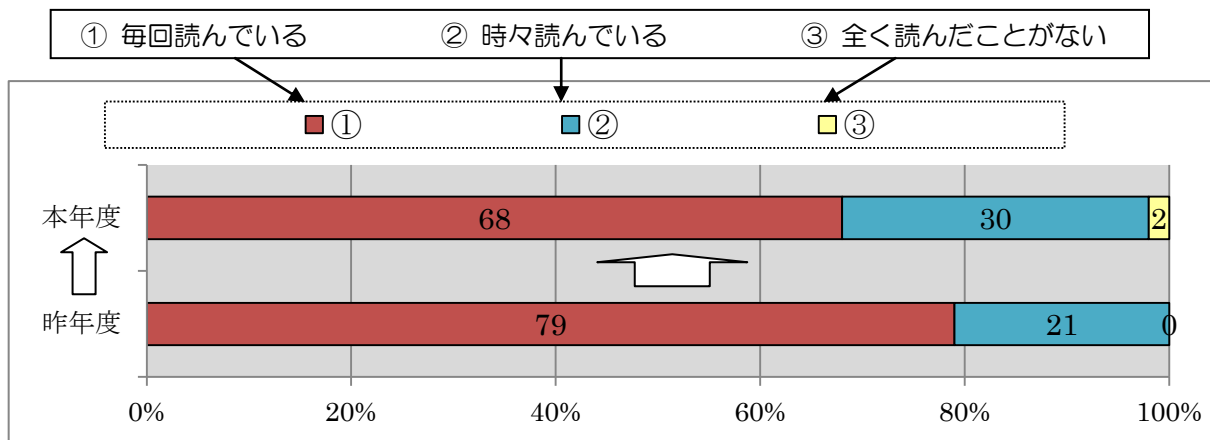
そこで、本年度は「通学便に係る支援」として、遠距離通学者（町外）への補助を実施しているが、今後町内生においても何らかの支援策を検討していく必要がある。

一方、「生徒への研修費補助」としての支援策（「農業後継者研修補助事業、みつばちプロジェクト補助事業」）を創設したが、まだまだ保護者の認知度が低い面もあるので、今後ともアピールしていく必要がある。また、現在高額支援（約200万円）している通信衛星授業の利用度が高まってくるとよい。

また「施設設備充実への支援」についても小中学校共に要望があるので、必要に応じて高校側と十分協議し、県教委への要望等必要があれば検討していかなければならない。

Ⅳ. 連携型中高一貫教育に係るアンケート調査（地域編）の結果と考察

① 広報紙「連携型中高一貫教育」マガジン『高原の風』を年3回町内全戸に配布していますが、読んだことがありますか。



考察 前年度と比較すると「読んでいる」の肯定的評価の回答が若干減少しているが、ほとんどの方に読んでいただいている。そのためにも、今後一層中身を充実させながら情報提供していく必要がある。

② 下欄①～③の連携型中高一貫教育に関連する行事で、本年度参加されたものがあれば、該当番号に○印で答えてください。（複数回答可）

- ① 連携型中高一貫教育支援会議総会（6月6日） ② 中高一貫教育講演会（11月22日、講師：大野 豊、会場：高蓋）
- ③ 油木高校に係る行事
- (1) 学園祭 (2) 農業系の発表会（農業クラブ意見発表会など）
- (3) 部活動等の大会（地区、県、全国大会など） (4) 総合的な学習成果発表会（「明日ある我ら」発表会）
- (5) ヒューマンフェア（林英哲のトーク&ライブ） (6) その他（ ）

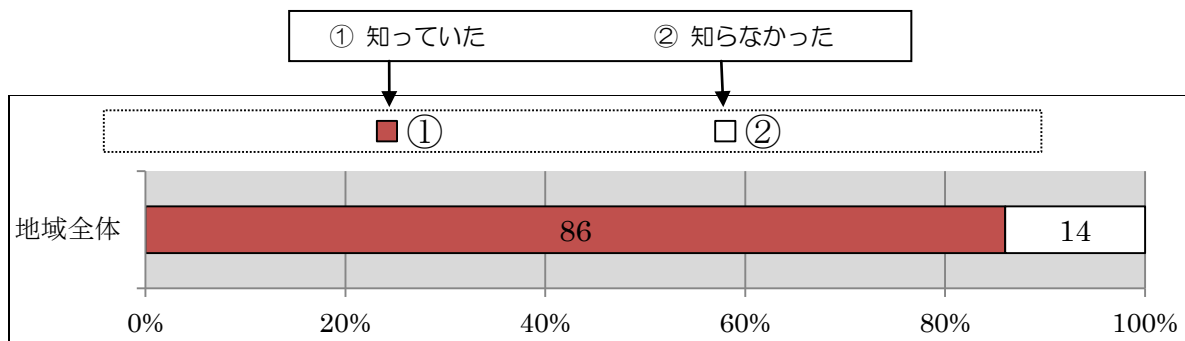
≪ 地位から回答頂いた方は 82名/96名でした。その中で参加された人数内訳は次の通りです。≫

* 82名中 68名（8.3%）が関連行事へ参加していただいていた。

行事名	① 支援会議 総会	② 中高一貫 講演会	③ 油木高校に係る行事						
			(1) 学園祭	(2) 農系発表会	(3) 部活動大会	(4) 総合発表会	(5) ヒューマンフェア	(6) その他	
参加人数									
↑	本年	48人	34人	20人	9人	11人	3人	21人	2人
	昨年	29人	22人	15人	20人	7人	12人	8人	5人

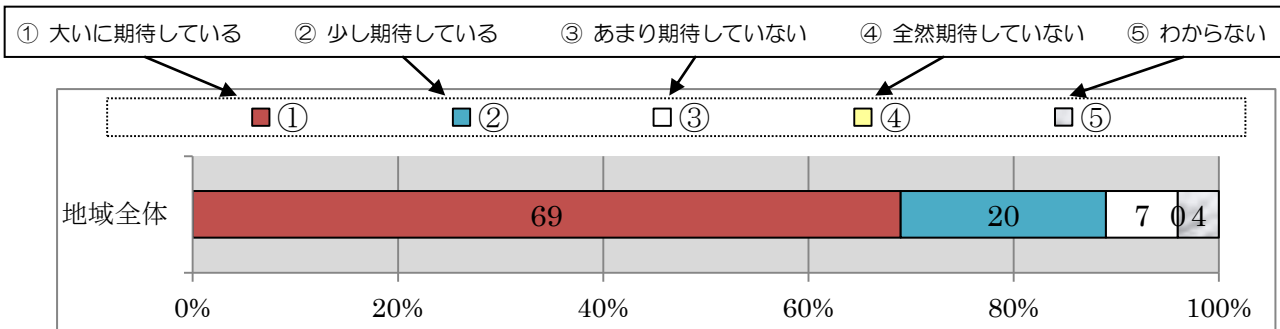
考察 上表が示すように、それぞれの中高一貫教育関連行事への参加人数は、総体的に前年度よりも多いことが分かる。今後は、中高連携実践の場を広く地域の方々へ直接参観いただくような計画もしていく必要がある。

③ 平成 26 年 4 月から油木高校と町内中学校とが連携型中高一貫校として正式にスタートすることをご存知でしたか。



考察 地域の多くの方は、平成 26 年度からの本格実施を知っておられる。それだけに、中高一貫教育への関心が高いものと思われる。

④ 来年度から油木高校と町内中学校との連携教育（例：交流授業、部活動交流、合同行事など）が本格実施しますが、そのことについてどう思いますか。

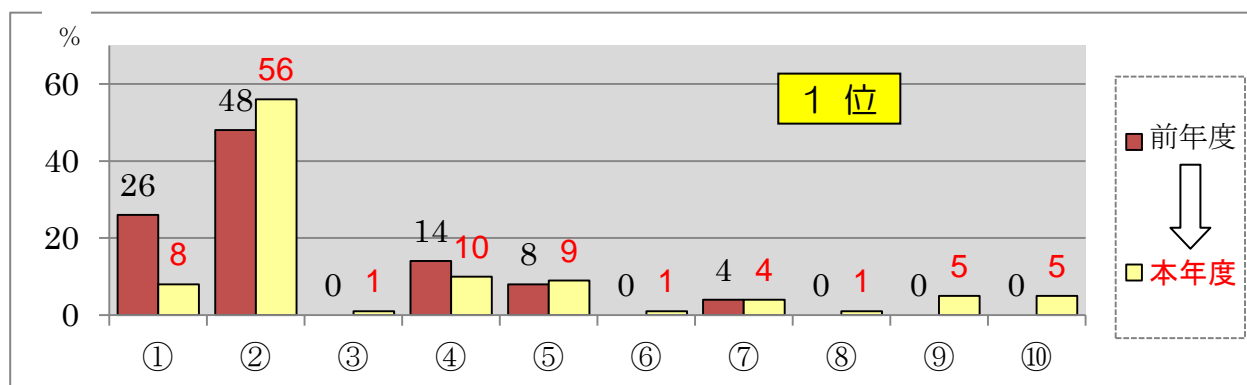


考察 上図のグラフが示すように、「期待している」の肯定的評価が 89%と、かなりの高率である。これは、「今後しっかりと取組むように」というエールととらえ、関係者はこの地域の期待をしっかりと意識して取組んでいく必要がある。また、その取組みの状況報告もしていく必要がある。

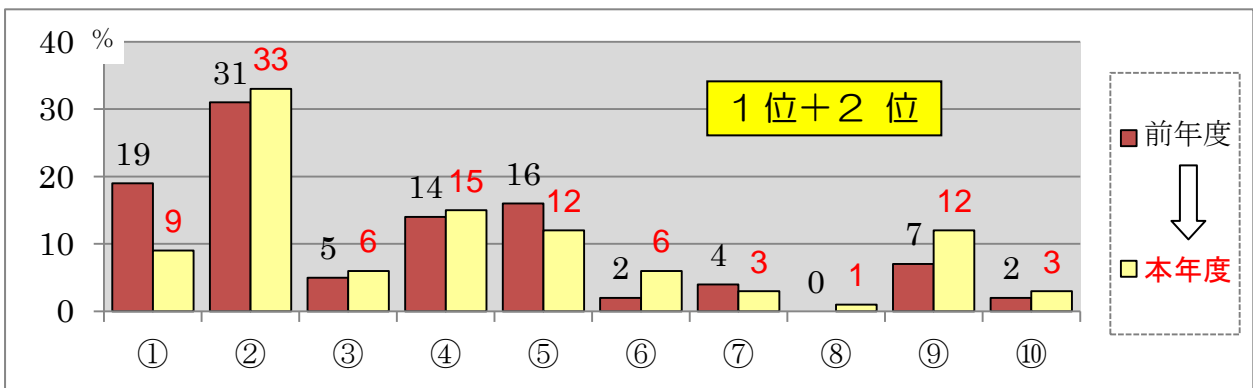
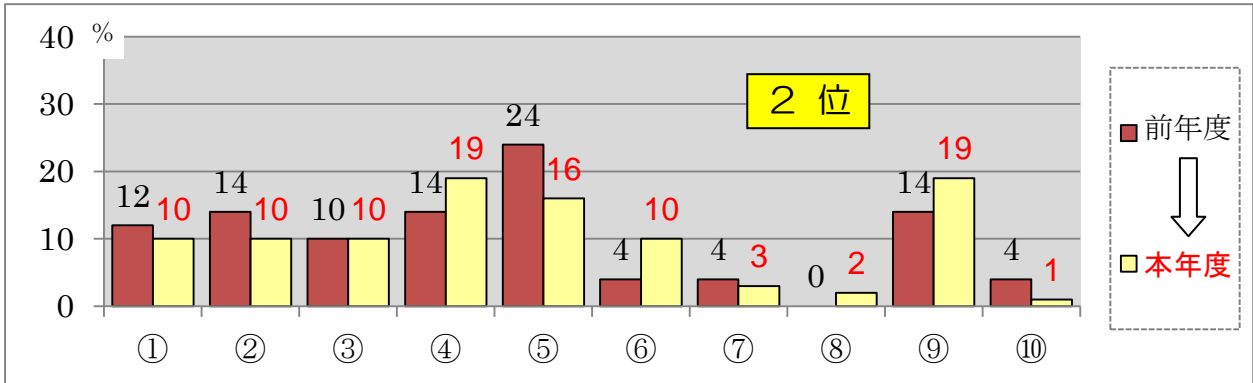
⑤ 油木高校の一層の魅力づくりとして、どんな支援策が必要だと思いますか。

下欄 ①～⑩の中から必要度の高い順番に2つ選び、番号で教えてください。

- | | | |
|--------------------------|-------------------------|-------------|
| ① 通学便に係る支援 | ② 学力充実への支援 | ③ 部活動への支援 |
| ④ 産業ビジネス科の取組への支援 | ⑤ 町内就職に係る支援 | ⑥ 施設設備の充実支援 |
| ⑦ PR活動 | ⑧ 豊かな心の育成支援（芸術鑑賞・講演会など） | |
| ⑨ 生徒への研修費補助（海外研修・農業研修など） | ⑩ その他（ ） | |



- ① 通学便に係る支援 ② 学力充実への支援 ③ 部活動への支援
 ④ 産業ビジネス科の取組への支援 ⑤ 町内就職に係る支援 ⑥ 施設設備の充実支援
 ⑦ PR活動 ⑧ 豊かな心の育成支援（芸術鑑賞・講演会など）
 ⑨ 生徒への研修費補助（海外研修・農業研修など） ⑩ その他（ ）



考察 ・1位グループでは、圧倒的に②「学力充実への支援」(56%)が多く、次いで④「産業ビジネス科の取組への支援」(10%)、⑤「町内就職に係る支援」(9%)、①「通学便に係る支援」(8%)と小差で続いている。
 ・2位グループは、全体的に小差でばらついている。その中で多いものは、⑨「生徒への研修費補助」(19%)、④「産業ビジネス科の取組への支援」(19%)、⑤「町内就職に係る支援」(16%)である。
 ・1位+2位でも、圧倒的に②「学力充実への支援」(33%)が多く、次いで④「産業ビジネス科の取組への支援」(15%)、⑤「町内就職に係る支援」(12%)、⑨「生徒への研修費補助」(12%)と続いている。

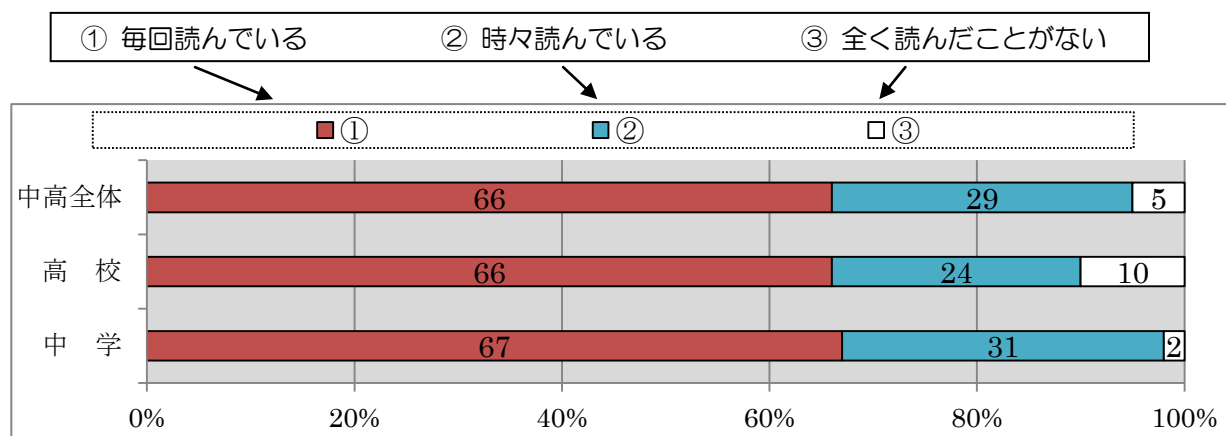
以上のようなことから、地域の多くは②「学力充実への支援」、④「産業ビジネス科の取組への支援」、⑤「町内就職に係る支援」、⑨「生徒への研修費補助」への支援を望んでおられ、前年2番目に多かった①「通学便に係る支援」は、本年度は5番目となっている。

一方、小中保護者の支援策要望は、②「学力充実への支援」、①「通学便に係る支援」、⑨「生徒への研修費補助」となっており、地域・小中保護者に共通するものとしては、②「学力充実への支援」や⑨「生徒への研修費補助」があげられる。

これらの結果を参考としながら、今後関係部署と十分に協議しながら、できる支援策を検討していく必要がある。

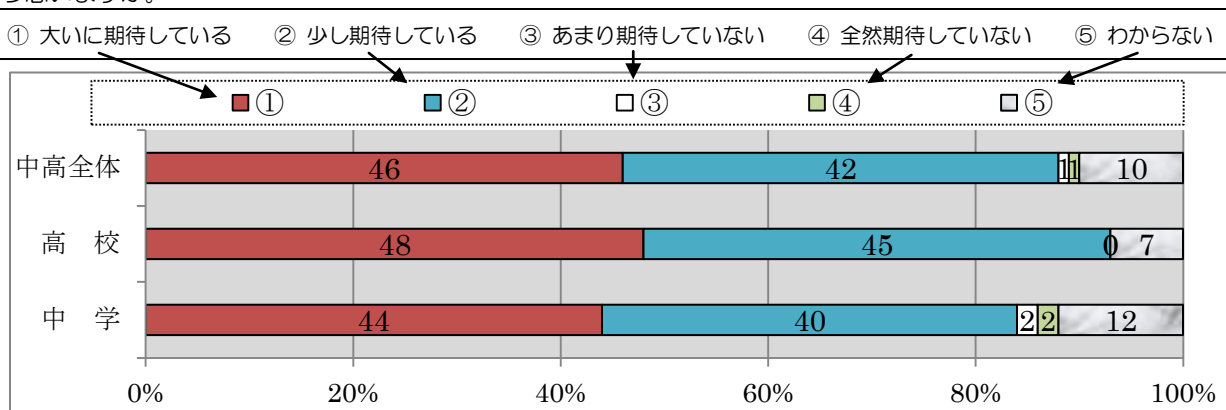
V. 連携型中高一貫教育に係るアンケート調査（中高教職員）の結果と考察

① 広報紙「連携型中高一貫教育」マガジン『高原の風』を年3回町内全学校に配布していますが、読んだことがありますか。



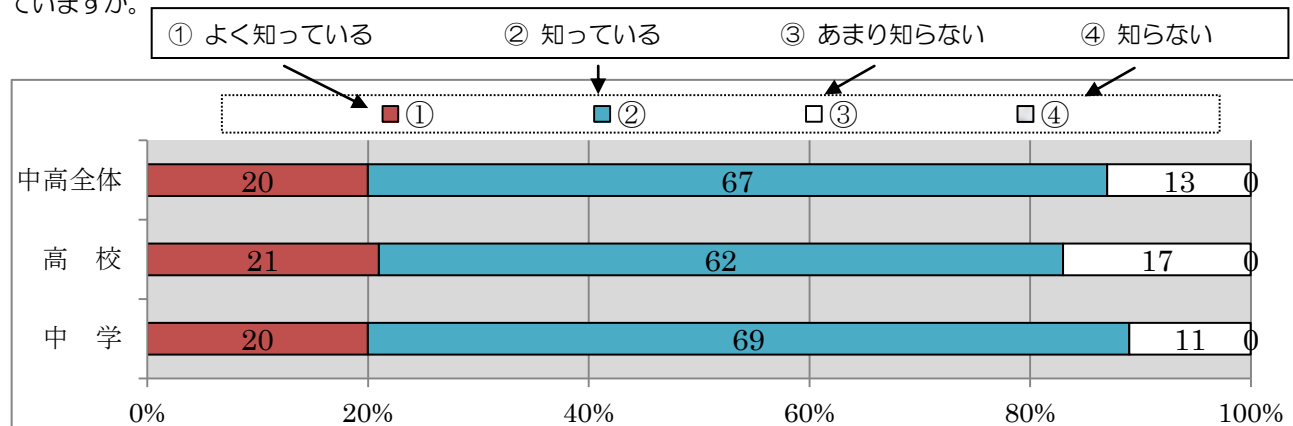
考察 大多数の教職員に読んでいただいている。しかし、「全く読んだことがない」が数%あるのは残念である。そのためにも、今後一層教育指導に役立つ中身を情報提供していく必要がある。

② 来年度から油木高校と町内中学校は連携型中高一貫教育校になり、連携教育が本格実施されますが、そのことについてどう思いますか。



考察 多くの教職員（約 90%）が期待感をもっていただいていることは大変重要なことであり、その期待感をもって、今後の連携活動に取り組んでいただけるものと確信している。

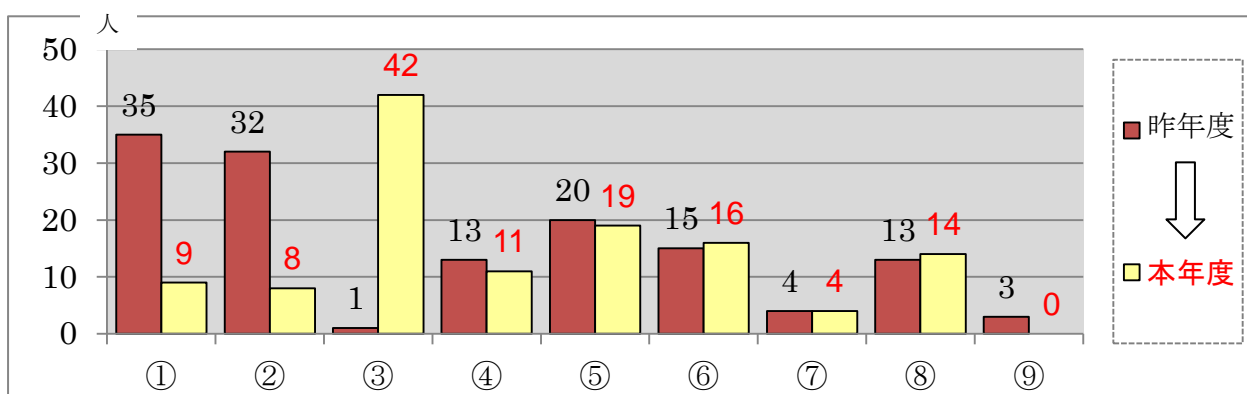
③ 本格実施後の中高間での連携教育内容について、これまで広報紙等で情報提供してきましたが、その内容について知っていますか。



考察 80%以上の教職員が連携教育内容について、本格実施後のイメージをもって頂いていることは、大変心強いことであるが、来年度新体制のもとで、全員が理解や把握を十分してスタートすることが重要である。

4 (1) 下欄①～⑨の中高連携教育に係る取り組みの中で、本年度参加されたものがあれば、該当番号に○印で答えてください。(複数回答可) ④ 但し、⑦は高校のみ、⑧は中学校のみ ご回答ください。

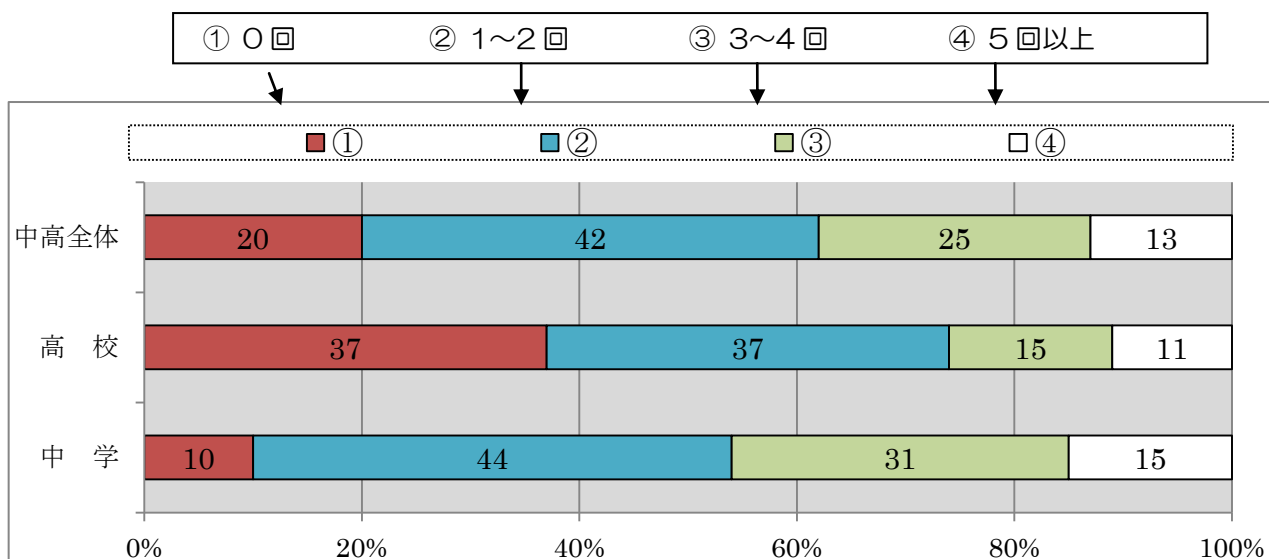
- ① 出前授業（高校英着入門講座も含む） ② 部活動交流 ③ 町研夏季全体研修会
 ④ 教科部会（授業研究など） ⑤ 教科外部会（進路・生指・連携など）
 ⑥ 中高一貫講演会(8月30日、講師：高階玲治、会場：油木) ⑦ 中学校の研究会（*高校のみ回答）
 ⑧ 油高の行事等（学園祭・オープンスクール・農業系発表会・総合的な学習発表会・講演会・油高杯剣道大会など）(*中学校のみ回答)
 ⑨ その他（ ）



考察 昨年度と比較してみると、①「出前授業」や②「部活動交流」が激減している。これは、中学校側の閉校等に係る取組の影響が多分にあると思われる。しかし、本格実施後は「授業交流」や「部活動交流」が連携実践の柱となるだけに、連携校同士が意識して取組んでいく必要がある。「部活動交流」では、本年度も体験した中高生は満足感を持っている者がほとんどで、是非とも今後は創意と工夫をもって充実させていく必要がある。

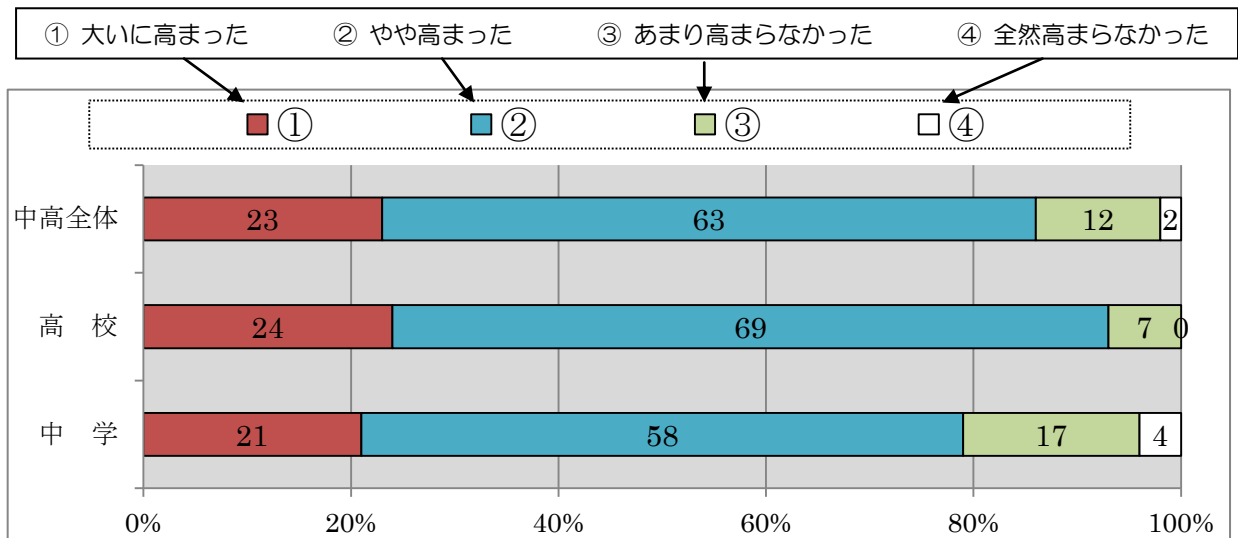
また、本年度は油高教職員の方々が、③「町研夏季全体研修会」に多数参加いただくことができた。今後この中身を充実発展させていくことが、本事業の成否にもつながるのではないと思われる。

(2) 上記 4 (1) で、参加した回数は総合計で何回ありますか。



考察 0回を含めて2回までが62%と昨年(61%)同様に半分以上を占めた。中高一貫教育が本格実施されていなかっただけに、連携実践していく難しさもあったが、今後は着実に連携実践の実績を高めていく必要がある。その為に、教職員一人一人が自分にとって何ができるか考え、計画的かつ意識的に取組んでいく必要がある。

(3) この1年間の中高連携の取り組みを通して、自分としては連携型中高一貫教育に係る意識(理解・関心・意欲)が高まりましたか。



考察 全体的には、概ね(80%以上)意識の高揚が見られる。しかし、「あまり高まらなかった」「全然高まらなかった」の否定的評価が、中高間で14%の差があるのは気になるところである。

教職員の意識が生徒や保護者に大きく影響するところが大きであるだけに、本格実施後は中高間が共通理解と共通認識をもって取組んでいく必要がある。